



Nissan Chemical
CORPORATION

未来のための、はじめてをつくる。

2023年3月期 決算説明会 Part1

説明者 八木晋介(代表取締役 取締役社長COO)

2023年5月15日



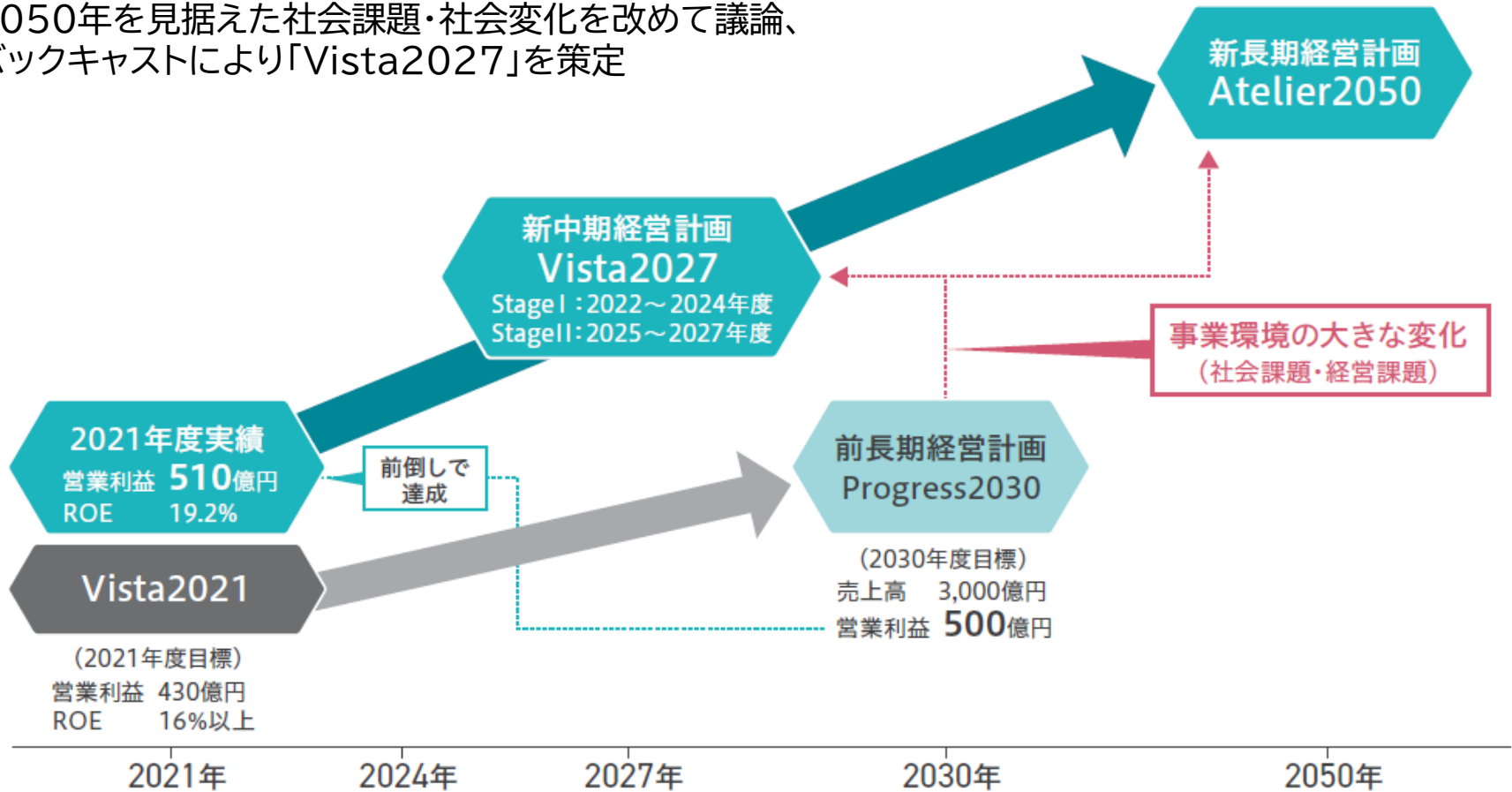
**Institutional
Investor**

2023 JAPAN EXECUTIVE TEAM

NISSAN CHEMICALS CORP

長期経営計画「Atelier2050」と中期経営計画「Vista2027」

Progress2030策定当時より事業を取り巻く環境が大きく変化したため、2050年を見据えた社会課題・社会変化を改めて議論、バックキャストにより「Vista2027」を策定



Atelier2050

2050年のあるべき姿 事業領域

既存のコア技術に加え、新技術を獲得し、3つの成長事業に関する新たな領域に進出
コア技術の深化と融合により各事業領域の成長を加速させ、社会課題解決に貢献する

社会課題
の解決

地球環境の保全
食料問題の解決

気候変動の緩和
スマート社会の実現

健康問題への対応
生活の質の向上



事業

新たな領域
への進出

① 情報通信

- 半導体材料
- ディスプレイ材料
- 光機能性材料

- センシングシステム

(IoTセンサー材料)

- メタマテリアル材料

② ライフサイエンス

- 農薬
- 動物薬
- 生体材料
- 医薬品
(低分子、核酸、ペプチド)

(生体模倣センサー)

- バイオスティミュラント

③ 環境エネルギー

- 2次・燃料電池材料

- 次世代太陽電池材料
- CCUS材料

- マイクロバイオーム

(微生物資材)

- CO₂還元システム

④ 素材・サービス

- 工業薬品
- コロイダルシリカ
- 関係会社

成長事業

基盤事業

コア技術

既存技術

精密有機合成

機能性高分子設計

微粒子制御

生物評価

光制御

新技術

微生物制御

情報科学

2027年の当社の姿

現有事業が業績を力強く牽引し、
事業領域の拡充に向け、
新たなコア技術を確実に修得している

サステナビリティに関わる取り組みが
組織的に進められ、
その関連情報を社内外に発信している

デジタル基盤の構築が進められ、
顧客・市場等の最新情報に
基づいて業務が進められている

2027年の売上高・利益目標、財務・非財務指標

売上高:2,850億円
営業利益:670億円
財務指標:ROE 18%以上など
非財務指標:日産化学サステナブルアジェンダ55%以上維持

Vista2027 基本戦略

事業領域の深掘りと
マーケティング力の向上

サステナブル経営の推進

価値創造・共創プロセス
の強化

現有事業のシェア・利益
の拡大

進捗

- 新たなコア技術 微生物制御技術の育成
 - ・生科研バイオリジカルG創設(2022年4月1日)
- 動物用医薬品開発・販売体制構築の検討
 - ・企画本部にアニマルケア企画グループを新設(2023年4月1日)
- デジタル技術を活用した研究開発の推進
 - ・実テーマでのMI(マテリアルズインフォマティクス)検証実施
- 新材料技術の導入
 - ・Arieca社との協業を開始(同社への出資とTIM*技術の導入)

*TIM 高性能熱伝導材料(サーマルインターフェース マテリアル)

日産化学サステナブルアジェンダ

社会課題解決に貢献する製品・サービスの提供により、
「地球と人の未来のためにできること」を追求する計画

貢献する領域



地球の未来のために
できること



CO₂の削減



廃棄物の削減



水環境の保全



人の未来のために
できること



人と動物の
健康問題の解決



スマート社会
の実現



食料不足
の解決

重要業績評価指標

社会課題解決に貢献する
製品・サービスの全売上に
占める割合

55% 以上
維持

進捗

- 日産化学サステナブルアジェンダの始動
 - ・22年度 全体売上に対する対象製品・サービスの売上 55%以上維持
- 気候変動対策に関する取組み
 - ・気候変動対策委員会の設置(2022年6月)
 - ・ICP(インターナルカーボンプライシング)の設定と活用

進捗

- 人事制度の刷新と人材育成
 - ・役割等級制度の導入(適所適材で人材を登用し適切に処遇)
 - ・キャリア開発の仕組みづくりの検討(人材育成の強化)
- 経営・業務基盤改革の推進
 - ・デジタル改革推進部を新設(2022年4月1日)
 - ・全社のDX基盤整備の開始(人・ルール・デジタル)

現有製品を成長の源泉の主軸とし、次世代の成長の源泉となる新製品も育成

進捗

■ 化学品

- ・メラミン撤退後の構造改革 アンモニア系事業の収益性の改善施策推進
- ・VOC CO₂削減に向けたバイオ燃料などのプロジェクトに参画

VOC: ビーナス®オイルクリーン

■ 機能性材料 ディ스플레이材料

- ・光IPS シェア堅持
- ・ラビングIPS 大型TV用途での採用獲得
- ・次世代ディスプレイ向け材料の開発力強化

■ 機能性材料 半導体材料

- ・EUV材料の開発力強化
- ・多層材料、実装材料のシェア拡大に向けた開発・営業展開
- ・NCK 唐津工場 建設は順調に進捗
- ・NCK R&Dセンター半導体材料部門 新設(2023年4月1日)

進捗

- 機能性材料 無機コロイド材料
 - ・Oil&Gas材の拡販
 - ・CCS材の開発 共同研究の開始
- 農業化学品
 - ・NBR(Nissan Bharat Rasayan)商業稼働を開始(2023年3月)
 - ・グレーシア グローバル展開の推進
 - ・ラウンドアップ 専用ノズルULV5やソーシャルメディアを活用した拡販
 - ・小野田工場 新規除草剤原体 NC-653のプラント建設は順調に進捗
- ヘルスケア
 - ・核酸医薬 開発候補化合物でnon-GLP試験の実施を開始
 - ・生体材料 Heartseed社が治験のために実施した細胞塊の製造で prevelex[®] を使用



新たにインドに建設された農業化学品の工場(NBR)

企業の姿 人と自然の豊かさを希求し成長する未来創造企業

組織の姿 強い情熱で変革に挑む共創者集団

事業領域

情報通信

ライフ
サイエンス

環境
エネルギー

素材・
サービス

中期経営計画
Vista2027

長期経営計画
Atelier2050

2022年

2023年

<方針>

- (1) コア技術の育成、次の成長エンジンとなる新製品の創出
- (2) GHG排出量削減、事業活動を通じた社会課題解決への貢献
- (3) 人材育成
- (4) 製品ポートフォリオの最適化と現有製品の利益の最大化



Nissan Chemical
CORPORATION

未来のための、はじめてをつくる。

2023年3月期 決算説明会 Part2

説明者 大門秀樹(取締役専務執行役員CFO)

2023年5月15日



**Institutional
Investor**

2023 JAPAN EXECUTIVE TEAM

NISSAN CHEMICALS CORP

Contents

01

2022年度通期 連結決算報告

P3

02

2023年度通期 業績予想

P8

03

セグメント概況

P18

04

2026年度の売上高イメージ

P48

05

ESGトピックス

P52

06

参考資料

P61

Contents

01

2022年度通期 連結決算報告

P3

02

2023年度通期 業績予想

P8

03

セグメント概況

P18

04

2026年度の売上高イメージ

P48

05

ESGトピックス

P52

06

参考資料

P61

下期

前年同期比

- 売上高は、24億円増収(+2%)
- 営業利益は、56億円減益(-19%)
- 純利益は、51億円減益(-23%)

通期

前年同期比

- 売上高は、201億円増収(+10%)
- 営業利益は、13億円増益(+3%)
- 純利益は、23億円増益(+6%)
- 営業利益・経常利益は9年連続、純利益は10年連続、過去最高益を更新

通期

業績予想比

(2023年2月発表予想
=4Q予想との比較)

- 売上高は、14億円下ぶれ
- 営業利益は、11億円下ぶれ
- 純利益は、10億円下ぶれ

株主還元

- 通期配当164円(前年比42円増配)、11年連続増配
- 自己株式取得 90億円完了(1,356千株)
- 配当性向56.3%(中計目標55%)、総還元性向78.0%(同75%)

2022年度通期決算サマリー 前年同期比

(億円)

	2021年度 実績					2022年度 実績					前年同期比				
	上期	3Q	4Q	下期	年間	上期	3Q	4Q	下期	年間	上期	3Q	4Q	下期	年間
売上高	918	495	667	1,162	2,080	1,095	497	689	1,186	2,281	+177 (+19%)	+2 (0%)	+22 (+3%)	+24 (+2%)	+201 (+10%)
営業利益	213	126	171	297	510	282	106	135	241	523	+69 (+32%)	-20 (-16%)	-36 (-21%)	-56 (-19%)	+13 (+3%)
営業外損益	10	9	8	17	27	38	-13	10	-3	35	+28	-22	+2	-20	+8
為替差損益	1	2	8	10	11	30	-21	4	-17	13	+29	-23	-4	-27	+2
経常利益	223	135	179	314	537	320	93	145	238	558	+97 (+44%)	-42 (-31%)	-34 (-19%)	-76 (-24%)	+21 (+4%)
特別損益	0	2	3	5	5	0	0	8	8	8	0	-2	+5	+3	+3
純利益 ^{※1}	163	93	132	225	388	237	71	103	174	411	+74 (+45%)	-22 (-24%)	-29 (-21%)	-51 (-23%)	+23 (+6%)
EBITDA ^{※2}	260	152	200	352	612	333	135	165	300	633	+73	-17	-35	-52	+21
EPS(円/株)	113.94	65.64	92.30	157.94	271.88	167.74	50.25	73.37	123.62	291.36	+53.80	-15.39	-18.93	-34.32	+19.48
配当(円/株)	50	-	-	72	122	70	-	-	94	164	+20	-	-	+22	+42
配当性向(%)	-	-	-	-	44.9%	-	-	-	-	56.3%	-	-	-	-	+11.4pt
配当総額	71	-	-	102	173	99	-	-	132	231	+28	-	-	+30	+58
売上高営業利益率	23.2%	25.5%	25.5%	25.5%	24.5%	25.7%	21.4%	19.6%	20.4%	22.9%	+2.5pt	-4.1pt	-5.9pt	-5.1pt	-1.6pt
ROE	-	-	-	-	19.2%	-	-	-	-	19.4%	-	-	-	-	+0.2pt
為替レート(円/ドル)	110	114	116	115	112	134	141	132	137	136	-	-	-	-	-
原油(JCC)(ドル/bbl) ^{※3}	70	80	86	83	77	112	100	87	94	103	-	-	-	-	-

※1 純利益は、親会社株主に帰属する純利益を指す ※2 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 ※3 実績は財務省貿易統計ベース

2022年度決算通期サマリー 前回業績予想比

(億円)

	2022年度 予想 (2023年2月発表)			2022年度 実績			業績予想比
	1-3Q	4Q	年間	1-3Q	4Q	年間	4Q
売上高	1,592	703	2,295	1,592	689	2,281	-14
営業利益	388	146	534	388	135	523	-11
営業外損益	25	-4	21	25	10	35	+14
為替差損益	9	-12	-3	9	4	13	+16
経常利益	413	142	555	413	145	558	+3
特別損益	0	15	15	0	8	8	-7
純利益※1	308	113	421	308	103	411	-10
EBITDA※2	468	181	649	468	165	633	-16
EPS(円/株)	217.99	80.62	298.61	217.99	73.37	291.36	-7.25
配当(円/株)	70	94	164	70	94	164	0
配当総額	99	132	231	99	132	231	0
売上高営業利益率	24.4%	20.8%	23.3%	24.4%	19.6%	22.9%	-0.4pt
ROE	-	-	19.7%	-	-	19.4%	-0.3pt
為替レート(円/ドル)	137	130	135	137	132	136	-
原油(JCC)(ドル/bbl)※3	108	100	106	108	87	103	-

※1 純利益は、親会社株主に帰属する純利益を指す

※2 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

※3 実績は財務省貿易統計ベース

営業利益の増減分析

※1 前回業績予想比=4Q予想比

		2022年度 実績	2021年度 実績	前年同期比	前回予想(2023年2月発表)	前回業績予想比※1
		523 億円	510 億円	+13 億円(+3%)	534 億円	-11 億円
通期	化学品	前年同期比	-24億円	メラミン(終売)・テピックの減収、原燃料高		
		業績予想比	3億円下ぶれ	テピックの下ぶれ、原燃料高		
	機能性材料	前年同期比	-22億円	ディスプレイの減収、固定費増加		
		業績予想比	8億円下ぶれ	ディスプレイ予想通り、半導体下ぶれ		
	農業化学品	前年同期比	+50億円	主要製品の販売好調		
		業績予想比	4億円下ぶれ	在庫変動影響(減益要因)により利益下ぶれ		
	ヘルスケア	前年同期比	+2億円	ファインテックの増収		
		業績予想比	1億円上ぶれ	固定費下ぶれ		

		2022年度 実績	2021年度 実績	前年同期比
		241 億円	297 億円	-56 億円(-19%)
下期	化学品	前年同期比	-23億円	メラミン(終売)・テピックの減収、原燃料高
	機能性材料	前年同期比	-30億円	ディスプレイの減収、固定費増加
	農業化学品	前年同期比	-2億円	主要製品の販売好調も、固定費増加により減益
	ヘルスケア	前年同期比	+1億円	ファインテックの増収

Contents

01

2022年度通期 連結決算報告

P3

02

2023年度通期 業績予想

P8

03

セグメント概況

P18

04

2026年度の売上高イメージ

P48

05

ESGトピックス

P52

06

参考資料

P61

2023年度通期業績予想

上期

前年同期比

- 売上高は9億円減収(-1%)
- 営業利益は21億円減益(-7%)(うち1Qで28億円減益)
- 純利益は40億円減益(-17%)(為替差損益(営業外損益)30億円減益※1)

※1 p12参照

通期

前年同期比

- 売上高は92億円増収(+4%)
- 営業利益は24億円増益(+5%)
- 純利益は4億円増益(+1%)
- 営業利益は10年連続、純利益は11年連続、過去最高益を更新
- ROE予想は18.6%

株主還元予想

- 中計目標に基づき、総還元性向目標は75%、配当性向目標は55%
- 自己株式取得50億円を発表

配当	通期164円 中間70円、期末94円、配当性向55.1% 【前年比】据え置き
自己株式取得	50億円 ● 2023年5月15日発表分 50億円(2023年5~7月)(2022年度実績 90億円、1,356千株)
自己株式消却	70万株消却済(2023年5月)
総還元性向目標	75%(配当164円と自己株式取得50億円に基づけば67.1%)

2023年度業績予想サマリー 前年同期比

(億円)

	2022年度 実績					2023年度 業績予想					前年同期比				
	1Q	2Q	上期	下期	年間	1Q	2Q	上期	下期	年間	1Q	2Q	上期	下期	年間
売上高	583	512	1,095	1,186	2,281	548	538	1,086	1,287	2,373	-35 (-6%)	+26 (+5%)	-9 (-1%)	+101 (+9%)	+92 (+4%)
営業利益	173	109	282	241	523	145	116	261	286	547	-28 (-16%)	+7 (+6%)	-21 (-7%)	+45 (+19%)	+24 (+5%)
営業外損益	22	16	38	-3	35	7	-4	3	5	8	-15	-20	-35	+8	-27
為替差損益	17	13	30	-17	13	0	0	0	0	0	-17	-13	-30	+17	-13
経常利益	195	125	320	238	558	152	112	264	291	555	-43 (-22%)	-13 (-10%)	-56 (-17%)	+53 (+22%)	-3 (-1%)
特別損益	0	0	0	8	8	0	6	6	6	12	0	+6	+6	-2	+4
純利益 ^{※1}	139	98	237	174	411	109	88	197	218	415	-30 (-21%)	-10 (-10%)	-40 (-17%)	+44 (+25%)	+4 (+1%)
EBITDA ^{※2}	197	136	333	300	633	-	-	319	357	676	-	-	-14	+57	+43
EPS(円/株)	98.13	69.61	167.74	123.62	291.36	-	-	140.74	156.87	297.61	-	-	-27.00	+33.25	+6.25
配当(円/株)	-	-	70	94	164	-	-	70	94	164	-	-	0	0	0
配当性向(%)	-	-	-	-	56.3%	-	-	-	-	55.1%	-	-	-	-	-1.2pt
配当総額	-	-	99	132	231	-	-	98	131	229	-	-	-1	-1	-2
売上高営業利益率	29.6%	21.3%	25.7%	20.4%	22.9%	26.5%	21.6%	24.0%	22.2%	23.1%	-3.1pt	+0.3pt	-1.7pt	+1.8pt	+0.2pt
ROE	-	-	-	-	19.4%	-	-	-	-	18.6%	-	-	-	-	-0.8pt
為替レート(円/ドル)	130	138	134	137	136	128	128	128	128	128	-	-	-	-	-
原油(JCC)(ドル/bbl) ^{※3}	111	113	112	94	103	92	92	92	92	92	-	-	-	-	-

※1 純利益は、親会社株主に帰属する純利益を指す

※2 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

※3 実績は財務省貿易統計ベース

上期

	2023年度 予想	2022年度 実績	前年同期比
	261 億円	282 億円	-21 億円(-7%)
化学品	前年同期比 +1億円	メラミン(終売)・テピックの減収、原燃料高も、固定費減、在庫変動影響(増益要因)により増益	
機能性材料	前年同期比 -12億円	半導体の減収、固定費増加	
農業化学品	前年同期比 -1億円	グレーシア・ラウンドアップの増収も、固定費増加により減益	
ヘルスケア	前年同期比 横ばい		

通期

	2023年度 予想	2022年度 実績	前年同期比
	547 億円	523 億円	+24 億円(+5%)
化学品	前年同期比 +18億円	メラミン(終売)の減収も、尿素・アドブルー、硝酸製品、環境化学品で増収	
機能性材料	前年同期比 +11億円	ディスプレイ、無機の増収	
農業化学品	前年同期比 +5億円	グレーシア・アルテア・ラウンドアップの増収	
ヘルスケア	前年同期比 -7億円	リバロ・ファインテックの減収	

営業外損益・特別損益の内訳

(億円)

	2021年度 実績			2022年度 実績			前年同期比			2022年度 予想※4	2023年度 予想		
	上期	下期	年間	上期	下期	年間	上期	下期	年間	年間	上期	下期	年間
受取利息・配当金	3.2	5.0	8.2	4.5	10.8	15.3	+1.3	+5.8	+7.1	14.6	3.6	7.4	11.0
持分法投資損益	4.6	4.9	9.5	6.2	8.7	14.9	+1.6	+3.8	+5.4	17.7	6.5	4.5	11.0
為替差損益※1	1.0	10.3	11.3	30.2	-17.2	13.0	+29.2	-27.5	+1.7	-3.1	0.0	0.0	0.0
支払利息	-0.5	-0.2	-0.7	-0.9	-1.6	-2.5	-0.4	-1.4	-1.8	-2.5	-2.8	-2.5	-5.3
固定資産処分損他	1.1	-2.1	-1.0	-1.7	-3.9	-5.6	-2.8	-1.8	-4.6	-6.2	-5.1	-3.8	-8.9
営業外損益	9.4	17.9	27.3	38.3	-3.2	35.1	+28.9	-21.1	+7.8	20.5	2.2	5.6	7.8
特別利益	28.2	5.5	33.7	0.0	14.6	14.6	-28.2	+9.1	-19.1	15.0	6.0	6.0	12.0
特別損失	-27.9	-1.1	-29.0	0.0	-6.5	-6.5	+27.9	-5.4	+22.5	0.0	0.0	0.0	0.0
特別損益※2・3・4・5	0.3	4.4	4.7	0.0	8.1	8.1	-0.3	+3.7	+3.4	15.0	6.0	6.0	12.0

※1 為替レート(円/ドル): 21/3末 110.72、21/9末 111.95、22/3末 122.41、22/9末 144.81、23/3末 133.54

※2 2021年度年間実績:

特別利益+33.7億円(有価証券売却益33.7億円・売却額43.3億円、9銘柄(うち3銘柄保有全株数売却)、非上場株を含む)

特別損失-29.0億円(メラミン構造改善費用17.9億円、日本燐酸設備撤去費用6.3億円、出資先(非上場会社)にかかる保有株式減損4.8億円)

※日本燐酸: 当社関連会社(出資比率35%)、硫酸および燐酸液の製造・販売。燐酸液の製造停止決定に伴い、出資比率に応じて設備撤去費用等を負担

※3 2022年度年間実績:

特別利益+14.6億円(有価証券売却益14.6億円・売却額25.3億円、7銘柄(うち4銘柄保有全株数売却)、非上場株を含む)

特別損失-6.5億円(出資先(非上場会社)にかかる保有株式減損6.5億円)

※4 2022年度年間予想(2023年2月発表):

特別利益+15.0億円(有価証券売却益15.0億円)

※5 2023年度年間予想:

特別利益+12.0億円(有価証券売却益12.0億円)

運転資金や設備投資の増加により、2022年度のフリー・キャッシュ・フローは155億円となり、前年同期比140億円の減少

	2021年度 実績	2022年度 実績	前年同期比	2022年度 予想 (2022年11月発表)	2023年度 予想
営業活動によるキャッシュ・フロー	419	352	-67	454	452
税金等調整前純利益	542	566	+24	583	562
特別損益(マイナスは益)	-5	-8	-3	0	-12
減価償却費※1	102	110	+8	115	129
法人税等の支払	-132	-154	-22	-143	-149
運転資金増減他	-88	-162	-74	-101	-78
投資活動によるキャッシュ・フロー	-124	-197	-73	-232	-208
設備投資	-113	-182	-69	-211	-209
投資有価証券購入・売却	41	20	-21	-5	19
その他	-52	-35	+17	-16	-18
フリー・キャッシュ・フロー	295	155	-140	222	244
財務活動によるキャッシュ・フロー	-278	-250	+28	-250	-269
株主還元(配当)	-155	-201	-46	-291	-320
株主還元(自己株式取得)	-120	-90	+30		
借入金増減	-3	42	+45	41	51
その他	0	-1	-1	0	0
現金及び現金同等物に係る換算差額	6	13	+7	0	0
現金及び現金同等物の増減額	23	-82	-105	-28	-25
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	0	31	+31	31	0
現金及び現金同等物の残高	347	296	-51	350	271

※1 のれん償却費を含む

貸借対照表

(億円)

	2022年3月末	2023年3月末	前期末比
流動資産	1,753	1,894	+141
現預金	347	296	-51
売上債権	800	827	+27
たな卸資産	522	647	+125
その他	84	124	+40
固定資産	1,044	1,093	+49
有形固定資産	532	647	+115
無形固定資産	118	115	-3
投資有価証券	302	273	-29
その他	92	58	-34
資産合計	2,797	2,987	+190

	2022年3月末	2023年3月末	前期末比
負債	717	772	+55
買入債務	190	199	+9
借入金	227	273	+46
その他	300	300	0
純資産	2,080	2,215	+135
株主資本※2	1,967	2,088	+121
その他有価証券評価差額金	83	77	-6
為替換算調整勘定	9	17	+8
非支配株主持分	21	31	+10
退職給付に係る調整累計額	0	2	+2
負債純資産合計	2,797	2,987	+190

自己資本比率	73.6%	73.1%
D/Eレシオ※3	-6.1%	-1.1%

投資有価証券(固定資産)の内訳

	2021年3月末	2022年3月末	2023年3月末	前期末比
上場株式※1 (単体ベース保有銘柄数)	244 (31)	189 (30)	169 (26)	-20 (-4)
非上場株式	27	26	24	-2
関係会社株式	88	87	80	-7
合計	359	302	273	-29

純資産に占める 政策保有株式の割合※4	12.4%	9.5%	7.9%
------------------------	-------	------	------

※1 22/3末 189 +取得0 +売却・評価差額-20 =23/3末 169

※2 株主資本増減 +121 = 純利益411 - 配当その他290

※3 D/Eレシオ = (借入金 - 現金預金) / 株主資本

※4 政策保有株式割合 =

政策保有株式(単体ベース、上場株+非上場株) / 純資産(連結ベース)
各期の政策保有株式(単体、億円)は、
21/3末 248、22/3末 198、23/3末 175

セグメント別 設備投資額・減価償却費・研究開発費

研究開発費は、2020-21年度にコロナによる出張活動縮小などで減少したものの、2022-23年度は回復を見込む

(億円)

	設備投資※1						減価償却※2						研究開発費					
	2018	2019	2020	2021	2022	2023 予想	2018	2019	2020	2021	2022	2023 予想	2018	2019	2020	2021	2022	2023 予想
化学品	20	31	49	23	37	37	18	19	22	25	25	28	6	4	3	3	3	2
機能性材料※3	33	33	32	58	87	82	60	52	45	39	46	54	82	77	70	70	76	76
農業化学品※4	33	79	64	15	62	75	17	23	26	27	28	35	45	46	44	42	43	48
ヘルスケア※5	5	6	5	5	4	5	6	6	5	4	4	4	25	25	24	6	4	4
卸売	1	1	1	0	1	1	1	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0
その他	7	7	7	9	12	17	7	4	5	6	7	7	20	20	24	39	42	44
合計	99	157	158	110	203	217	109	105	104	102	110	129	178	172	165	160	168	174

※1 設備投資額

- ・実績：検収ベース
- ・予想：稼働開始ベース（一部、検収ベース）

※2 減価償却法

- ・サンエバー、ARC®、多層材料：4年定率（初年度50%を償却）
- ・その他製品：8年定率（初年度25%を償却）

※3 2022年 NCK半導体新工場(27億円)、
2023年予想 NCK半導体新工場(33億円・検収ベース)を含む

※4 2019年クインテック買収(63億円)、2020年ダイセン買収(54億円)、
2022年NBR 第1期工事(46億円)、2023年予想製造設備(43億円・検収ベース)を含む

※5 2022年4月に組織改定を実施。2018-20数字は旧医薬品セグメント(p75,p76参照)

主要な設備投資※1一覽

(億円)

2020年度 実績		2021年度 実績		2022年度 見込み		2023年度 予想	
項目	金額	項目	金額	項目	金額	項目	金額
材料研(機器)	14	農薬(製造設備)	43	NBR 農薬※2 (製造設備)	46	NCK 半導体※3 (製造設備)	33
デジタル関連	11	デジタル関連	13	NCK 半導体※3 (製造設備)	27	デジタル関連	26
農薬(製造設備)	9	物質研(機器)	7	デジタル関連	15	ST(製造設備)	14
半導体分析機器	8	材料研(機器)	5	物質研(機器)	9	農薬(製造設備)	12
物質研(機器)	7	DP(製造設備)	3	材料研(機器)	7	物質研(機器)	10
NCK 半導体 (製造設備)	4	生物科学研(機器)	3	DP(製造設備)	5	材料研(機器)	8
生物科学研(機器)	2			生物科学研(機器)	4	生物科学研(機器)	3

※1 主要投資額: 注記があるものを除き、すべて承認ベース ※2 NBR 第1期工事(検収ベース) ※3 NCK半導体新工場(検収ベース)

新中期経営計画Vista2027において成長が期待される新製品群

機能性材料

- **ディスプレイ 有機EL関連材料**
有機ELに使用される材料の開発、拡販に取り組む
- **半導体 EUV材料、三次元実装材料**
半導体の更なる微細化・積層化に対応する材料の拡販を目指す

農業化学品

- **農薬 NC-653**
2024年上市予定の水稲用除草剤。抵抗性ホタルイや難防除雑草クログワイに高い効果を持つ
- **農薬 NC-520**
2025年上市予定の水稲用殺虫剤。ウンカ類に卓越した効果を示す
- **農薬 NC-656**
2027年上市予定の水稲用除草剤。抵抗性イネ科雑草に優れた効果を持つ。当社初の水稲用茎葉除草剤

ヘルスケア

- **ヘルスケア**
核酸医薬7テーマへの取り組み、生体界面制御材料、化粧品材料での伸長を目指す
- **ファインテック**
ジェネリック、ペプチド受託に取り組む

企画本部

- **情報通信材料 FOWLP用RDL材料、光配線材料**
RDL用感光絶縁膜材料を開発中。FOWLP、3D/2.5Dなど次世代パッケージでの採用獲得を目指す
半導体の基板の上に光の通り道を配線する材料。パッケージ基板メーカー等での採用獲得を目指す
- **環境エネルギー材料 二次電池材料**
電池特性向上を図るスラリー添加剤。現在、電池/自動車メーカーにて評価中。

Contents

01

2022年度通期 連結決算報告

P3

02

2023年度通期 業績予想

P8

03

セグメント概況

P18

04

2026年度の売上高イメージ

P48

05

ESGトピックス

P52

06

参考資料

P61

セグメント別 2022年度通期決算 前年同期比

(億円)

		2021年度 実績					2022年度 実績					前年同期比				
		上期	3Q	4Q	下期	年間	上期	3Q	4Q	下期	年間	上期	3Q	4Q	下期	年間
化学品	売上高	171	105	100	205	376	198	101	91	192	390	+27 (+16%)	-4 (-4%)	-9 (-9%)	-13 (-6%)	+14 (+4%)
	営業利益	12	13	13	26	38	11	4	-1	3	14	-1 (-9%)	-9 (-67%)	-14 (-108%)	-23 (-88%)	-24 (-63%)
機能性材料	売上高	396	209	212	421	817	420	206	200	406	826	+24 (+6%)	-3 (-1%)	-12 (-5%)	-15 (-4%)	+9 (+1%)
	営業利益	131	76	69	145	276	139	69	46	115	254	+8 (+6%)	-7 (-8%)	-23 (-33%)	-30 (-20%)	-22 (-8%)
農業化学品	売上高	250	119	289	408	658	357	131	328	459	816	+107 (+43%)	+12 (+10%)	+39 (+13%)	+51 (+12%)	+158 (+24%)
	営業利益	69	30	82	112	181	121	31	79	110	231	+52 (+75%)	+1 (+3%)	-3 (-3%)	-2 (-2%)	+50 (+28%)
ヘルスケア	売上高	33	20	13	33	66	32	16	19	35	67	-1 (-3%)	-4 (-17%)	+6 (+38%)	+2 (+5%)	+1 (+1%)
	営業利益	14	9	5	14	28	15	6	9	15	30	+1 (+5%)	-3 (-27%)	+4 (+69%)	+1 (+8%)	+2 (+6%)
卸売・その他・調整額	売上高	68	42	53	95	163	88	43	51	94	182	+20	+1	-2	-1	+19
	営業利益	-13	-2	2	0	-13	-4	-4	2	-2	-6	+9	-2	0	-2	+7
合計	売上高	918	495	667	1,162	2,080	1,095	497	689	1,186	2,281	+177 (+19%)	+2 (0%)	+22 (+3%)	+24 (+2%)	+201 (+10%)
	営業利益	213	126	171	297	510	282	106	135	241	523	+69 (+32%)	-20 (-16%)	-36 (-21%)	-56 (-19%)	+13 (+3%)

※ セグメント間の内部売上高又は振替高を含む

※ 卸売：日星産業、その他：日産物流・日産緑化・日産エンジニアリング・日本肥糧ほか、調整額：企画本部ほか(内訳はp72,p73参照)

※ 企画本部の2021年度実績、2022年度実績の売上高・営業利益はp62に記載

※ 2021年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p75,p76参照)

セグメント別 2022年度通期決算 前回業績予想(2月発表)比

(億円)

		2022年度 予想 (2023年2月発表)			2022年度 実績			業績予想比
		1-3Q	4Q	年間	1-3Q	4Q	年間	4Q
化学品	売上高	299	98	397	299	91	390	-7
	営業利益	15	2	17	15	-1	14	-3
機能性材料	売上高	626	209	835	626	200	826	-9
	営業利益	208	54	262	208	46	254	-8
農業化学品	売上高	488	326	814	488	328	816	+2
	営業利益	152	83	235	152	79	231	-4
ヘルスケア	売上高	48	18	66	48	19	67	+1
	営業利益	21	8	29	21	9	30	+1
卸売・その他・調整額	売上高	131	52	183	131	51	182	-1
	営業利益	-8	-1	-9	-8	2	-6	+3
合計	売上高	1,592	703	2,295	1,592	689	2,281	-14
	営業利益	388	146	534	388	135	523	-11

※ セグメント間の内部売上高又は振替高を含む

※ 卸売：日星産業、その他：日産物流・日産緑化・日産エンジニアリング・日本肥糧ほか、調整額：企画本部ほか(内訳はp72,p73参照)

※ 企画本部の2022年度予想(2023年2月発表)は2023年2月発表 2022年度3Q決算説明会資料p55を参照、2022年度実績は本資料p62参照

セグメント別 2023年度通期業績予想 前年同期比

(億円)

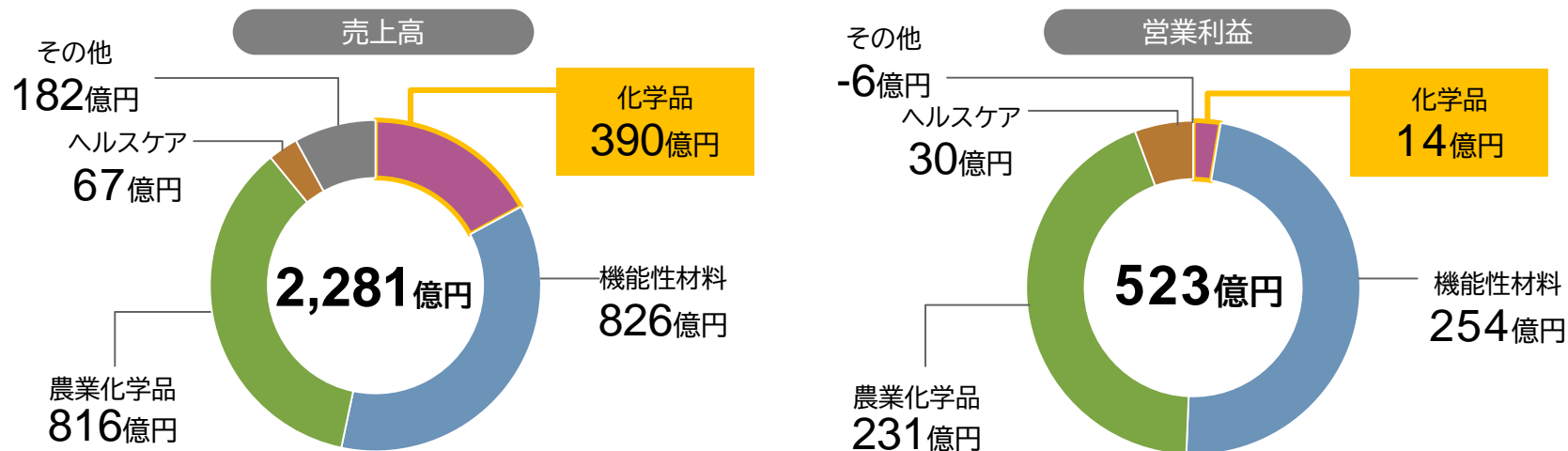
		2022年度 実績					2023年度 予想					前年同期比				
		1Q	2Q	上期	下期	年間	1Q	2Q	上期	下期	年間	1Q	2Q	上期	下期	年間
化学品	売上高	104	94	198	192	390	94	98	192	221	413	-10 (-10%)	+4 (+5%)	-6 (-3%)	+29 (+15%)	+23 (+6%)
	営業利益	17	-6	11	3	14	9	3	12	20	32	-8 (-48%)	+9 (-)	+1 (+13%)	+17 (+529%)	+18 (+132%)
機能性材料	売上高	218	202	420	406	826	205	212	417	458	875	-13 (-6%)	+10 (+5%)	-3 (-1%)	+52 (+13%)	+49 (+6%)
	営業利益	79	60	139	115	254	66	61	127	138	265	-13 (-16%)	+1 (+2%)	-12 (-8%)	+23 (+19%)	+11 (+4%)
農業化学品	売上高	197	160	357	459	816	192	176	368	474	842	-5 (-3%)	+16 (+10%)	+11 (+3%)	+15 (+3%)	+26 (+3%)
	営業利益	68	53	121	110	231	66	54	120	116	236	-2 (-3%)	+1 (+3%)	-1 (-1%)	+6 (+5%)	+5 (+2%)
ヘルスケア	売上高	17	15	32	35	67	19	13	32	28	60	+2 (+15%)	-2 (-18%)	0 (-1%)	-7 (-18%)	-7 (-10%)
	営業利益	8	7	15	15	30	10	5	15	8	23	+2 (+32%)	-2 (-29%)	0 (+3%)	-7 (-48%)	-7 (-23%)
卸売・その他・調整額	売上高	47	41	88	94	182	38	39	77	106	183	-9	-2	-11	12	1
	営業利益	1	-5	-4	-2	-6	-6	-7	-13	4	-9	-7	-2	-9	6	-3
合計	売上高	583	512	1,095	1,186	2,281	548	538	1,086	1,287	2,373	-35 (-6%)	+26 (+5%)	-9 (-1%)	+101 (+9%)	+92 (+4%)
	営業利益	173	109	282	241	523	145	116	261	286	547	-28 (-16%)	+7 (+6%)	-21 (-7%)	+45 (+19%)	+24 (+5%)

※ セグメント間の内部売上高又は振替高を含む

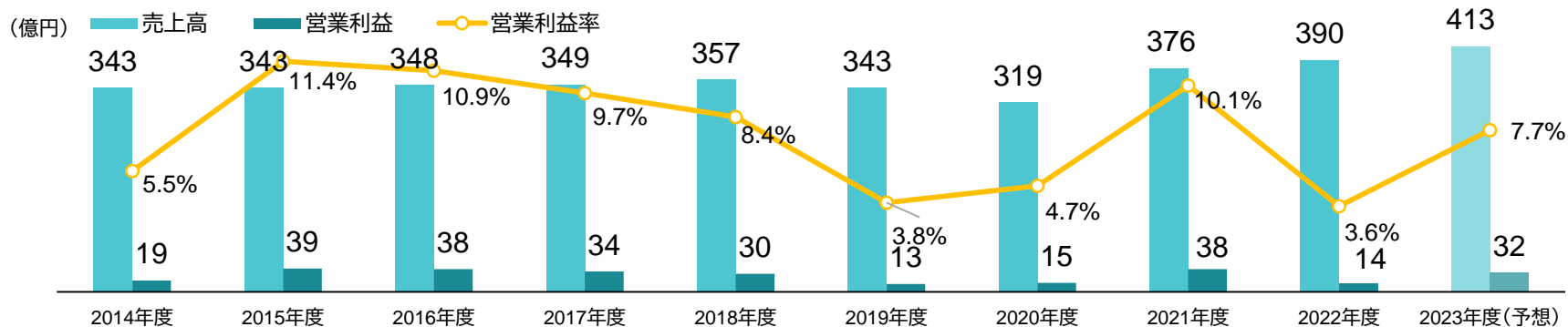
※ 卸売：日星産業、その他：日産物流・日産緑化・日産エンジニアリング・日本肥糧ほか、調整額：企画本部ほか(内訳はp72,p73参照)

※ 企画本部の2022年度実績、2023年度予想の売上高・営業利益はp62に記載

2022年度セグメント別業績



化学品セグメント業績推移※1



※1 2022年4月に組織改定を実施。2014～2020年度実績は旧セグメント区分。2021年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p75,p76参照)

- ファインケミカルは、2022年度下期で11%減収、2023年度年間では6%増収予想
- 基礎化学品は、2022年度下期で4%減収、2023年度年間で6%増収予想

主要製品	2022年度 実績					2023年度 予想				
	前年同期比					前年同期比				
	上期	3Q	4Q	下期	年間	1Q	2Q	上期	下期	年間
テピック	+25%	-33%	-56%	-44%	-12%	-61%	-26%	-47%	+91%	+1%
環境化学品	+17%	+4%	+28%	+17%	+17%	+15%	+14%	+14%	+17%	+16%
ファインオキシコール	+36%	+8%	-5%	+2%	+16%	-19%	-3%	-11%	+2%	-5%
ファインケミカル合計 ^{※1}	+23%	-8%	-14%	-11%	+5%	-26%	-3%	-15%	+33%	+6%
メラミン ^{※2}	+28%	-85%	-100%	-92%	-49%	-100%	-100%	-100%	-100%	-100%
尿素・アドブルー [®]	+56%	+70%	+54%	+62%	+60%	+40%	+35%	+38%	+3%	+17%
高純度硫酸	+1%	-10%	-15%	-12%	-6%	-12%	-9%	-11%	+16%	+2%
硝酸製品	-14%	+15%	+6%	+10%	-1%	+83%	+25%	+49%	+12%	+27%
基礎化学品合計 ^{※3・4}	+11%	0%	-7%	-4%	+3%	+1%	+9%	+5%	+6%	+6%
	(+8%)	(+22%)	(+15%)	(+19%)	(+14%)	(+30%)	(+22%)	(+26%)	(+8%)	(+16%)
化学品セグメント合計 ^{※3}	+16%	-4%	-9%	-6%	+4%	-10%	+5%	-3%	+15%	+6%
	(+14%)	(+10%)	(+4%)	(+7%)	(+10%)	(+4%)	(+12%)	(+8%)	(+16%)	(+12%)

※1 テピック、環境化学品、ファインオキシコールの2022年度実績ファインケミカル売上高に占める割合: 85%

※2 メラミンは2022年6月に生産停止済み(p27参照、メラミン生産停止による構造改革)

※3 ()内伸び率は、2021年度実績・2022年度実績ともにメラミンを除く

※4 メラミン、尿素・アドブルー[®]、高純度硫酸、硝酸製品の2022年度実績基礎化学品売上高に占める割合: 52%

【下期】売上高-13億円(うちメラミン-26億円)、営業利益-23億円

【年間】売上高+14億円(うちメラミン-21億円)、営業利益-24億円

(億円)

	2021年度 実績					2022年度 実績					前年同期比				
	上期	3Q	4Q	下期	年間	上期	3Q	4Q	下期	年間	上期	3Q	4Q	下期	年間
売上高	171	105	100	205	376	198	101	91	192	390	+27	-4	-9	-13	+14
ファインケミカル	62	37	32	69	131	77	33	28	61	138	+15	-4	-4	-8	+7
基礎化学品	109	68	68	136	245	121	68	63	131	252	+12	0	-5	-5	+7
営業利益	12	13	13	26	38	11	4	-1	3	14	-1	-9	-14	-23	-24

※ 2021年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p75,p76参照)

【下期】減収・減益 【年間】増収・減益

- テピック一般 【下期】【年間】とも需要減で減収
- テピック電材 【下期】【年間】とも減収
- 環境化学品 【下期】【年間】とも価格上昇で増収
- ファインオキシコール 【下期】【年間】とも価格上昇で増収

【下期】原燃料高(減益要因)
【年間】原燃料高、運送費高騰(減益要因)

【下期】減収・減益 【年間】増収・減益

- メラミン 【下期】【年間】とも終売で減収(p27参照)
- 尿素・アドブルー® 【下期】【年間】とも価格上昇で増収
- 高純度硫酸 【下期】【年間】とも半導体市場低調で減収
- 硝酸製品 【下期】価格上昇で増収
【年間】横ばい
(22年度上期プラントトラブル影響)

【下期】固定費増加3億円、原燃料高(減益要因)
【年間】固定費増加5億円、原燃料高(減益要因)

ファイン
ケミカル

基礎
化学品

【年間】売上高+23億円、営業利益+18億円

(億円)

	2022年度 実績					2023年度 予想					前年同期比				
	1Q	2Q	上期	下期	年間	1Q	2Q	上期	下期	年間	1Q	2Q	上期	下期	年間
売上高	104	94	198	192	390	94	98	192	221	413	-10	+4	-6	+29	+23
ファインケミカル	42	35	77	61	138	31	34	65	82	147	-11	-1	-12	+21	+9
基礎化学品	62	59	121	131	252	63	64	127	139	266	+1	+5	+6	+8	+14
営業利益	17	-6	11	3	14	9	3	12	20	32	-8	+9	+1	+17	+18

【年間】増収・増益

ファインケミカル

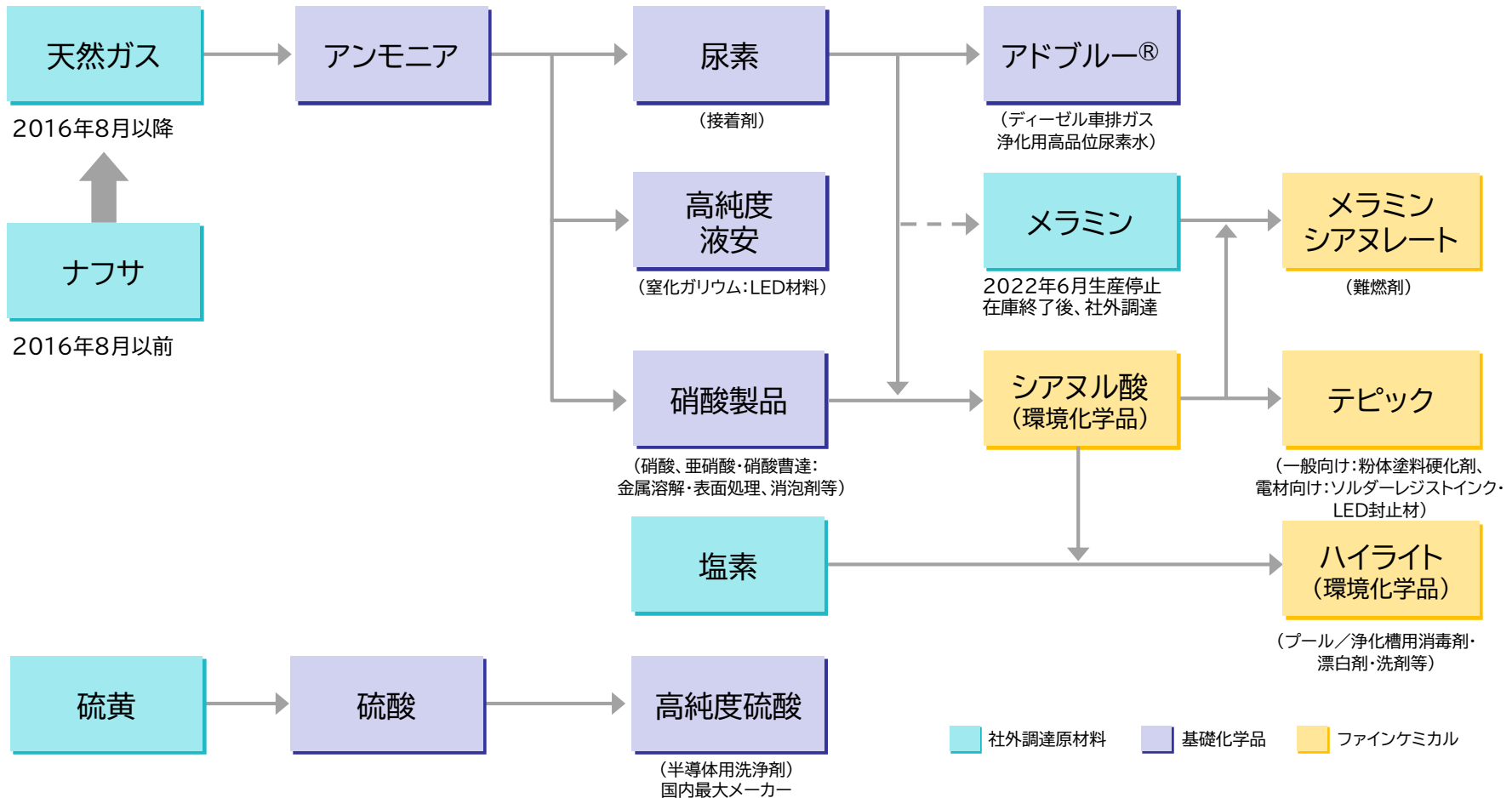
- テピック一般 横ばい
- テピック電材 下期回復により増収
- 環境化学品 数量増により増収
- ファインオキシソール 減収

【年間】増収・増益

基礎化学品

- メラミン 終売で減収(p27参照)
- 尿素・アドブルー® 増収(メラミン停止により増販、価格上昇)
- 高純度硫酸 価格上昇で増収
- 硝酸製品 数量増、価格上昇により増収
(22年度硝酸プラントトラブル影響)

- 主要製品は、アンモニア系と硫酸系
- 2022年度アンモニア国内生産能力シェアはわずか11%
- 規模を追わず、高純度硫酸やテピックなどの高付加価値製品へ注力



- 2021年8月発表通り、2022年6月にメラミン生産を停止、12月で販売終了
- 今後も高付加価値・高シェア製品へ経営資源を集中

1. 化学品事業の売上高・営業利益(2018-2021年度累計)

(億円)

	売上高(構成比)	営業利益(構成比)	主要製品
アンモニア系	925(66%)	19(20%)	アンモニア、尿素・アドブルー®、高純度液安、メラミン、硝酸、シアヌル酸、ハイライト、テピック、メラミンシアヌレート
硫酸系	470(34%)	77(80%)	硫酸、精製硫酸、高純度硫酸
その他			ファインオキシコール等
セグメント合計	1,395(100%)	96(100%)	

※アンモニア系製品中、メラミンが売上高最大も赤字。メラミン以外のアンモニア系製品合計利益は黒字

2. メラミンの現状と展望

下記要因から、中長期的に安定的な利益を確保することは困難でリスクの大きい事業、新規投資による利益拡大も望めない

- 世界の生産能力は、需要の2倍(当社推定)
- 国内の生産能力(当社含め2社)は、需要の3倍(当社推定)
- 価格は、21年度下期から22年度1Qまで回復基調だったが、以降急落
安値中国品(生産能力は世界の約7割を占める)の動向に大きく左右され、不安定

3. 対応策

- ① 2022年6月 メラミン生産停止、在庫消滅時点で販売終了
- ② 高付加価値、高シェア製品への資源集中等による拡販
- ③ メラミン操業員は、富山工場内で配置転換
- ④ メラミン誘導品は、原料メラミンを購入品に切り替えて販売継続

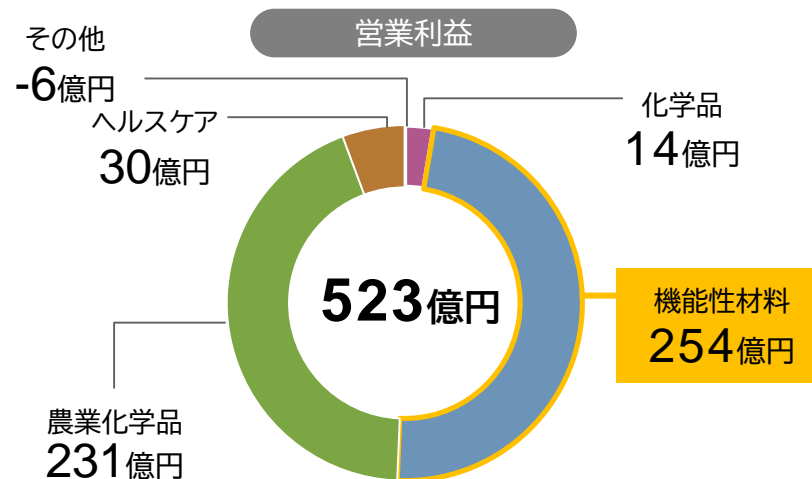
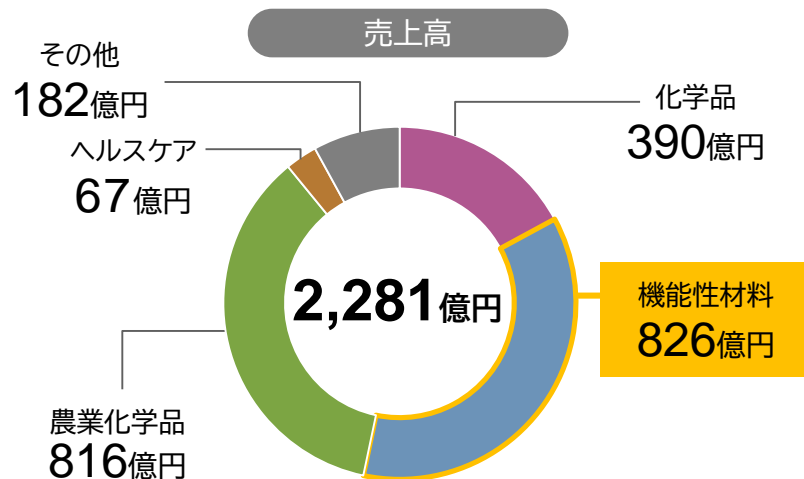
4. 構造改革費用

メラミン停止関連諸費用(特別損失17.9億円)は投資有価証券売却益でカバー済み(2021年2Q計上)

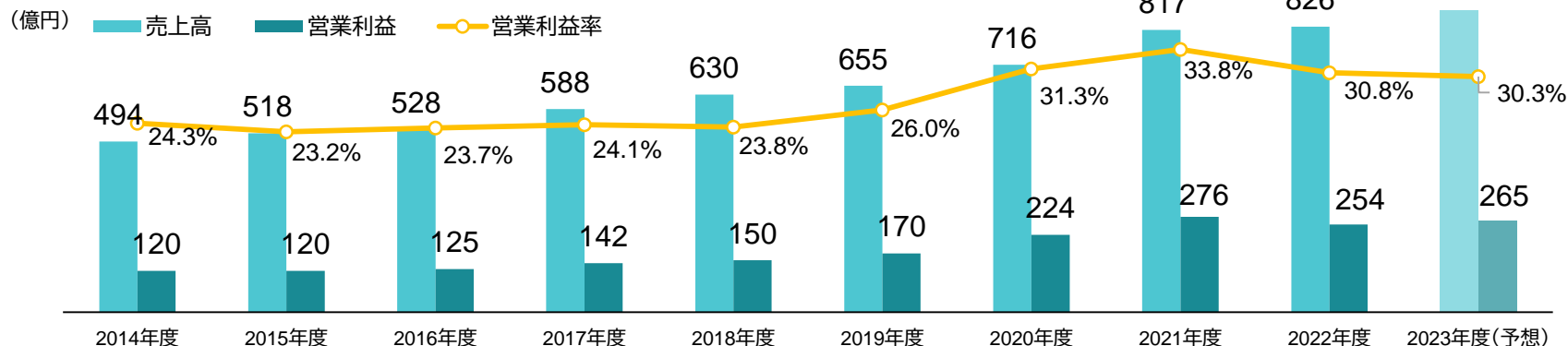
5. ESG

メラミン停止によるCO2削減量試算: -26千トン
→2018年度実績の約7%に相当(p53参照)

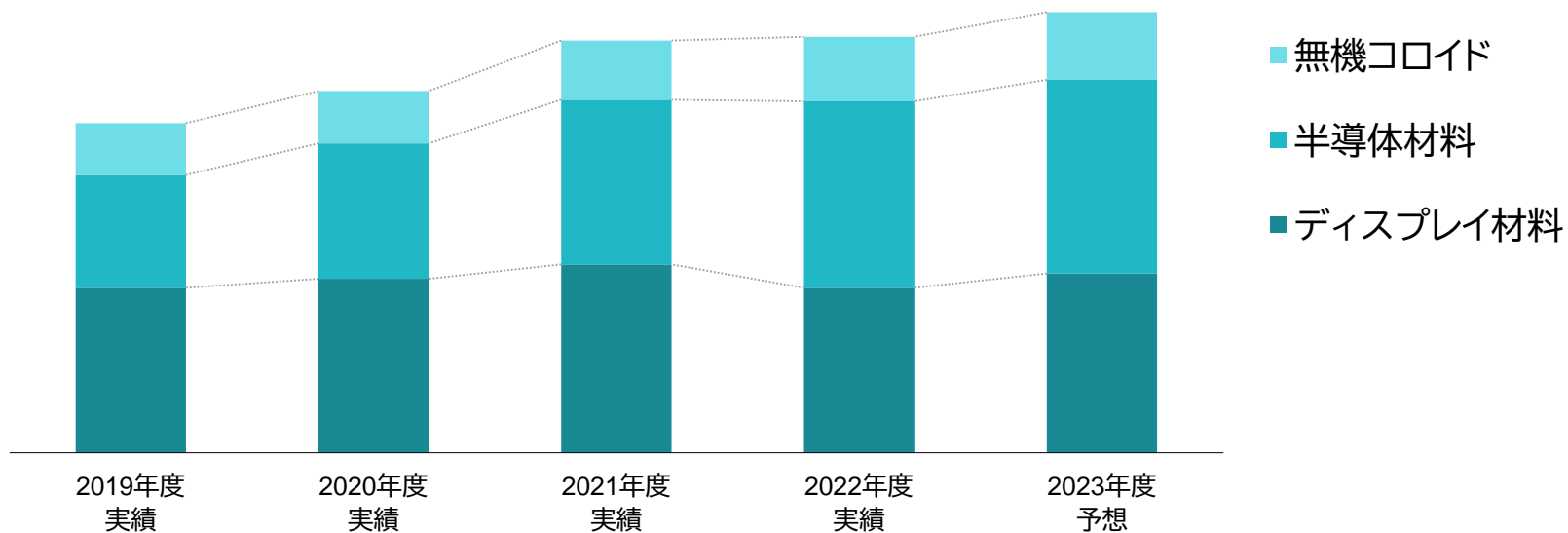
2022年度セグメント別業績



機能性材料セグメント業績推移※1



※1 2022年4月に組織改定を実施。2014～2020年度実績は旧セグメント区分。2021年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p75,p76参照)



主要製品

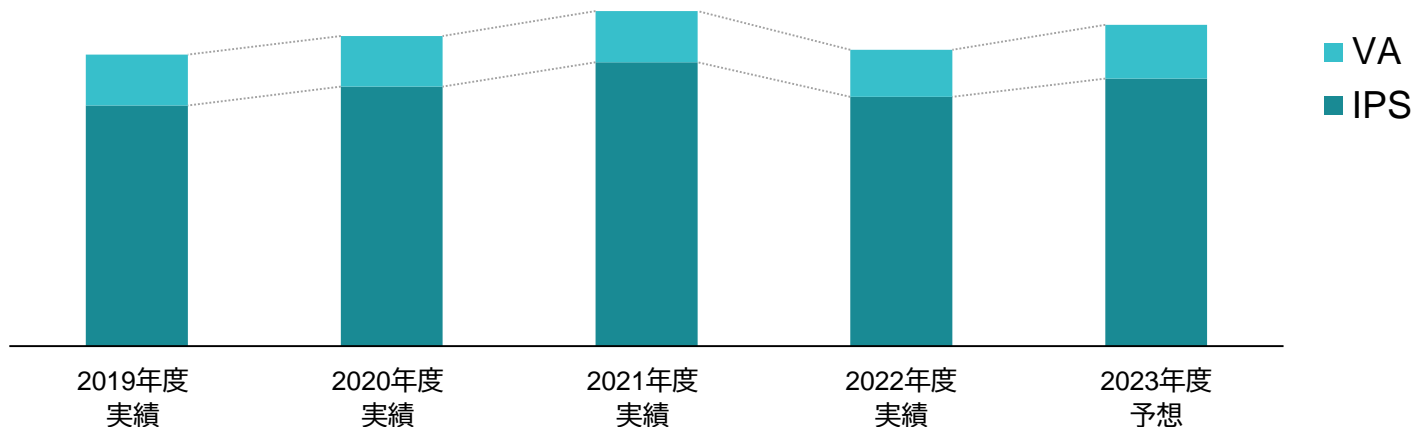
ディスプレイ材料		半導体材料		無機コロイド	
サンエバー	液晶配向材用ポリイミド	ARC®	半導体用反射防止コーティング材	スノーテックス	研磨剤(シリコンウェハー、化合物半導体、半導体CMP等) 特殊鋼板
		多層材料	半導体用多層プロセス材料 (OptiStack®)	オルガノゾル・モノマーゾル	電子機器用フィルム表面処理、樹脂添加剤
		EUV材料	EUVプロセス材料	オイル&ガス材料	シェールオイル・ガス採掘効率向上材

- ディ스플레이材料は、2022年度下期で12%減収、2023年度年間で9%増収予想
- 半導体材料は、2022年度下期で1%増収、2023年度年間で4%増収予想
- 無機コロイドは、2022年度下期で9%増収、2023年度年間で5%増収予想

主要製品	2022年度 実績					2023年度 予想				
	前年同期比					前年同期比				
	上期	3Q	4Q	下期	年間	1Q	2Q	上期	下期	年間
サンエバー	-12%	-6%	-16%	-11%	-12%	-7%	+28%	+8%	+8%	+8%
ディスプレイ材料合計	-13%	-7%	-17%	-12%	-12%	-7%	+28%	+8%	+9%	+9%
ARC®	+23%	-5%	-3%	-4%	+9%	-11%	-6%	-8%	+18%	+4%
多層材料	+31%	+6%	+15%	+10%	+20%	-4%	-19%	-12%	+9%	-2%
EUV材料※1	+60%	+47%	+11%	+28%	+43%	-6%	+4%	-1%	+45%	+21%
半導体材料合計	+26%	0%	+3%	+1%	+13%	-9%	-8%	-9%	+18%	+4%
スノーテックス	+6%	+17%	+8%	+12%	+9%	+7%	+7%	+7%	+12%	+10%
オルガノゾル・モノマーゾル	+10%	-13%	-20%	-17%	-4%	+18%	-15%	+1%	+11%	+6%
オイル&ガス材料	+94%	+182%	+98%	+131%	+114%	+21%	+5%	+12%	-16%	-5%
無機コロイド合計	+9%	+9%	+9%	+9%	+9%	+8%	0%	+4%	+6%	+5%
機能性材料セグメント合計	+6%	-1%	-5%	-4%	+1%	-6%	+5%	-1%	+13%	+6%

※1 EUV材料: EUV向け下層膜とSi-HMの合計

- 2022年度は、ディスプレイ市場減速のため年間実績では12%減収も、前回業績予想比では上ぶれ
- 2023年度は、年間で8%増収予想、他モード(ラビングIPSなど)から光IPSへの転換は順調に進む



主要用途

- VA (Vertical Alignment) テレビ
- IPS (In-Plane Switching) スマートフォン、タブレット、PC、モニター、車載

モード別売上高成長率	2022年度 年間実績		2023年度 年間予想
	前年同期比	前回業績予想比	前年同期比
VA	減収(-0 ~ -9%)	上ぶれ	増収(+10 ~ +19%)
IPS	減収(-10 ~ -19%)	上ぶれ	増収(+0 ~ +9%)
サンエバー合計(TN*含む)	-12%	上ぶれ	+8%

※ TN(Twisted Nematic) 主要用途はPC、モニター

【下期】売上高-15億円、営業利益-30億円、固定費増加合計18億円(共通費用増加1億円含む)

【年間】売上高+9億円、営業利益-22億円、固定費増加合計28億円※¹(共通費用増加2億円含む)

(億円)

	2021年度 実績※ ²					2022年度 実績					前年同期比				
	上期	3Q	4Q	下期	年間	上期	3Q	4Q	下期	年間	上期	3Q	4Q	下期	年間
売上高	396	209	212	421	817	420	206	200	406	826	+24	-3	-12	-15	+9
営業利益	131	76	69	145	276	139	69	46	115	254	+8	-7	-23	-30	-22

※¹ 固定費の集計方法を変更。2021年度実績は遡及して再計算

※² 2021年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p75,p76参照)

【下期】減収・減益 【年間】減収・減益

光IPS 【下期】【年間】とも減収

ラビングIPS 【下期】【年間】とも減収

VA 【下期】【年間】とも減収

【下期】ディスプレイ市場減速、固定費増加2億円

【年間】ディスプレイ市場減速、固定費増加3億円

ディス
プレイ

【下期】増収・減益 【年間】増収・増益

ARC® 【下期】減収 【年間】増収

多層材料 【下期】増収(一部顧客で在庫積み増し)
【年間】増収

EUV材料 【下期】【年間】とも増収
特にEUV下層膜は順調に伸長、シェア拡大継続

【下期】固定費増加11億円

【年間】固定費増加18億円

半導体

【下期】増収・減益 【年間】増収・利益横ばい

スノーテックス 【下期】【年間】とも増収(一般用途・研磨剤増収)

オルガノ・モノマーゾル 【下期】【年間】ともに減収

オイル&ガス材料 【下期】【年間】ともに増収

【下期】固定費増加4億円

【年間】固定費増加5億円

無機
コロイド

【年間】売上高+49億円、営業利益+11億円、固定費増加合計23億円※1(共通費用増加1億円含む)

(億円)

	2022年度 実績					2023年度 予想					前年同期比				
	1Q	2Q	上期	下期	年間	1Q	2Q	上期	下期	年間	1Q	2Q	上期	下期	年間
売上高	218	202	420	406	826	205	212	417	458	875	-13	+10	-3	+52	+49
営業利益	79	60	139	115	254	66	61	127	138	265	-13	+1	-12	+23	+11

※1 固定費の集計方法を変更

【年間】増収・増益

ディス
プレイ

光IPS 増収(スマホ・非スマホともに堅調)

ラビングIPS 若干増収

VA 増収(一部シェア拡大)

ディスプレイ市場回復、固定費増加4億円

【年間】増収・減益

半導体

ARC® 増収

多層材料 若干減収

EUV材料 増収
特にEUV下層膜は順調に伸長、シェア拡大継続

半導体市場回復、固定費増加17億円

【年間】増収・増益

無機
コロイド

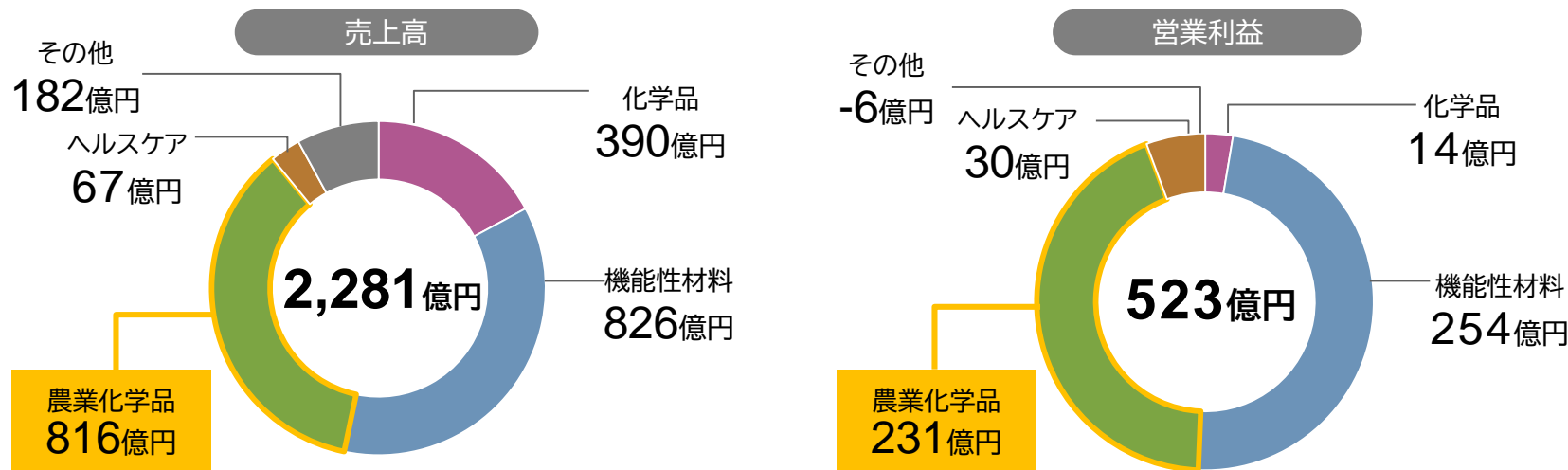
スノーテックス 増収(一般用途・研磨剤増収)

オルガノ・モノマーゾル 増収

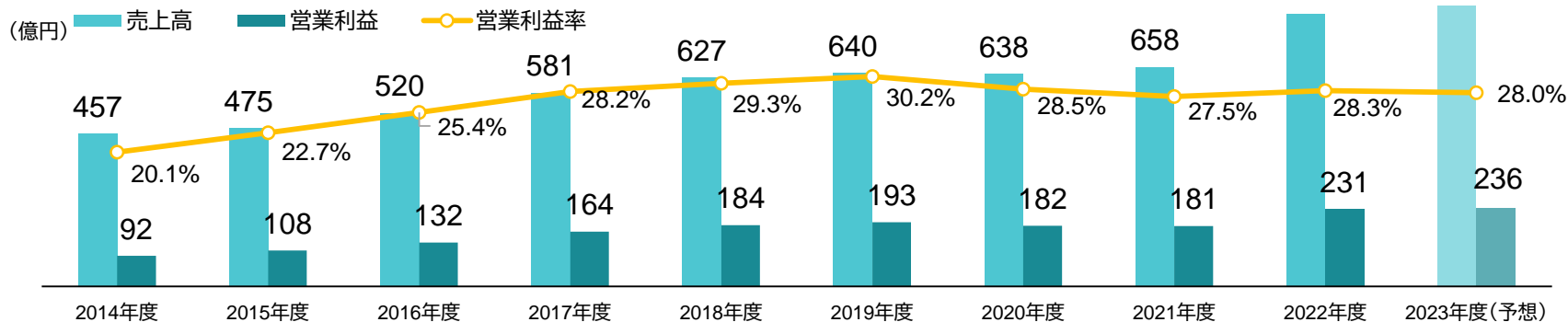
オイル&ガス材料 減収

固定費増加1億円

2022年度セグメント別業績



農業化学品セグメント業績推移※1

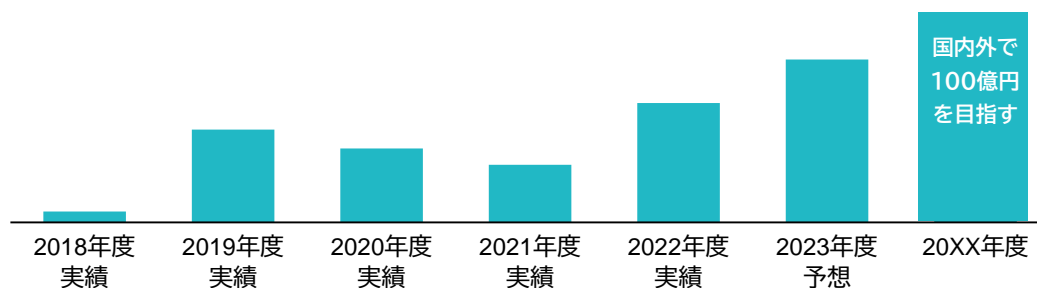


※1 2022年4月に組織改定を実施。2014～2020年度実績は旧セグメント区分。2021年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p75,p76参照)

■ 2022年度下期で12%増収、2023年度年間で3%増収予想

主要製品名 (農業:2022年度売上高順)	種類	2022年度 実績					2023年度 予想					
		前年同期比					前年同期比					
		上期	3Q	4Q	下期	年間	1Q	2Q	上期	下期	年間	
農薬	ラウンドアップ※1	除草剤	+16%	-28%	+16%	+7%	+11%	+2%	+13%	+7%	+6%	+6%
	アルテア	除草剤	+31%	+18%	+7%	+8%	+12%	+12%	+17%	+13%	+9%	+10%
	タルガ	除草剤	+30%	+7%	+3%	+4%	+16%	-17%	-25%	-20%	-9%	-14%
	ライメイ	殺菌剤	+144%	+25%	+87%	+77%	+97%	-46%	+72%	-6%	+4%	+1%
	グレーシア	殺虫剤	+199%	+105%	+70%	+82%	+108%	+58%	+84%	+70%	+21%	+37%
	ダイセン	殺菌剤	+38%	+24%	+19%	+20%	+26%	-23%	+3%	-12%	-1%	-5%
	パーミット	除草剤	+190%	-22%	-29%	-25%	+20%	-4%	+51%	+36%	-36%	0%
動物薬	フルララネル	動物薬	+42%	+62%	+5%	+29%	+37%	-3%	-1%	-2%	+10%	+3%
セグメント合計※2		-	+43%	+10%	+13%	+12%	+24%	-3%	+10%	+3%	+3%	+3%

■ グレーシア売上高



参考

■ 国内農薬販売 第1位
(2020年10月~2021年9月)

[ラウンドアップの現状説明会資料](#)

(2020年1月22日発表)

[農業化学品事業説明会資料](#)

(2022年9月28日発表)

※1 ラウンドアップALは、2022年度通期実績のラウンドアップ売上高全体の20%を占める

※2 セグメント合計の前年同期比は値引きを含む

【下期】売上高+51億円、営業利益-2億円、固定費増加10億円※1

【年間】売上高+158億円、営業利益+50億円、固定費増加18億円※1

(億円)

	2021年度 実績※2					2022年度 実績					前年同期比				
	上期	3Q	4Q	下期	年間	上期	3Q	4Q	下期	年間	上期	3Q	4Q	下期	年間
売上高	250	119	289	408	658	357	131	328	459	816	+107	+12	+39	+51	+158
営業利益	69	30	82	112	181	121	31	79	110	231	+52	+1	-3	-2	+50

※1 固定費の集計方法を変更。2021年度実績は遡及して再計算

※2 2021年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p75,p76参照)

主要製品

ラウンドアップ(除草剤)	【下期】増収(ML:価格上昇、AL:減収) 【年間】増収(ML:価格上昇、AL:横ばい)
アルテア(除草剤)	【下期】増収(国内:価格上昇) 【年間】増収(国内:価格上昇、拡販)
タルガ(除草剤)	【下期】増収 【年間】増収(輸出:好天候、混合剤拡販)
ライメイ(殺菌剤)	【下期】【年間】ともに増収(欧州での混合剤用途向け拡販により需要増)
グレーシア(殺虫剤)	【下期】【年間】ともに増収(国内:流通在庫解消により増収、輸出:新規国登録での拡販)
ダイセン(殺菌剤)	【下期】増収(国内:価格上昇、輸出:増収) 【年間】増収(国内:価格上昇、輸出:21年度下期から22年度へ出荷後ろ倒しにより増収)
パーミット(除草剤)	【下期】減収(21年度は販売が下期に偏重) 【年間】増収(輸出を中心に増収)
フルララネル(動物薬)	【下期】増収(原薬出荷・ロイヤリティ収入ともに堅調) 【年間】増収(原薬出荷:2021年度から後ろ倒し、顧客在庫調整終了、ロイヤリティ収入:堅調)

【年間】売上高+26億円、営業利益+5億円、固定費増加11億円※1

(億円)

	2022年度 実績					2023年度 予想					前年同期比				
	1Q	2Q	上期	下期	年間	1Q	2Q	上期	下期	年間	1Q	2Q	上期	下期	年間
売上高	197	160	357	459	816	192	176	368	474	842	-5	+16	+11	+15	+26
営業利益	68	53	121	110	231	66	54	120	116	236	-2	+1	-1	+6	+5

※1 固定費の集計方法を変更

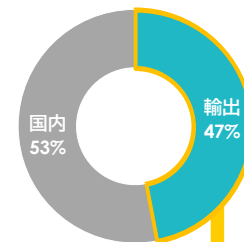
主要製品	説明
ラウンドアップ(除草剤)	増収(ML:価格上昇、AL:数量増)
アルテア(除草剤)	増収(国内:価格上昇、拡販)
タルガ(除草剤)	減収(輸出:22年度インド好天候により販売好調)
ライメイ(殺菌剤)	横ばい
グレーシア(殺虫剤)	増収(国内:増収、輸出:アジアでの拡販、混合剤上市)
ダイセン(殺菌剤)	減収(輸出:21年度下期から22年度へ出荷後ろ倒し)
パーミット(除草剤)	横ばい
フルララネル(動物薬)	増収(原薬出荷・ロイヤリティ収入ともに堅調)

上市年度	製品名	分類	開発経緯	備考
2002	ラウンドアップ	除草剤	買収	米国モンサント社より国内事業を買収、継続成長中
2008	ライメイ	殺菌剤	自社開発	
2008	スターマイト	殺虫剤	自社開発	
2009	バルサー(チフルザミド)	殺菌剤	買収	米国ダウ社より世界事業を買収
2009	プレバソン	殺虫剤	導入	米国デュポン社より導入
2010	ラウンドアップマックスロードAL	除草剤	自社開発	一般家庭向け希釈済みシャワータイプ除草剤。2016年AII、2018年AIII上市、急成長
2011	アルテア	除草剤	自社開発	2011年韓国で上市、2012年日本で上市
2013	フルララネル	動物用医薬品原薬	自社開発	米国MSD社※1向けにブラバクト®原薬として出荷開始
2014	ブラバクト®※2	ペット動物用医薬品	-	2014年4月欧州、6月米国、15年7月日本で上市
2015	トレファノサイド	除草剤	導入	米国ゴーワン社がダウ社より買収、当社は国内販売独占権を継承
2017	ネクスター	殺菌剤	導入	スイスシンジェンタ社より導入
2017	トランスフォーム™/エクシード™/ピレスコ™	殺虫剤	導入	米国ダウ社より導入
2017	エグゾルト®※2	家畜動物用医薬品	-	9月米国MSD社による、欧州でのニワトリ用製品上市
2018	グレーシア	殺虫剤	自社開発	広範囲の重要害虫に有効、ミツバチへの影響が少ない。2018年韓国、2019年日本、2021年インド・インドネシアで上市(ピーク時売上高目標100億円)
2019	クインテック(キノキシフェン)	殺菌剤	買収	2019年11月米国コルテバ社より世界事業を買収。果樹野菜のうどんこ病(カビの1種)の発病予防に非常に効果的
2020	ダイセン(マンゼブ)	殺菌剤	買収	2020年12月米国コルテバ社より日本・韓国事業を買収。果樹野菜用の保護除菌剤、耐雨性に優れる
2024	未定(ジメスルファゼット)(NC-653)	除草剤	自社開発	イネへの優れた安全性があり、抵抗性ホタルイカや難防除雑草クログワイに高い効果を持つ(ピーク時売上目標35億円)
2025	未定(NC-520)	殺虫剤	共同開発	他社との共同開発の新規水稲用殺虫剤。ウンカ類への効果が高い(混合剤も含めピーク時売上目標25億円)
2027	未定(イプトリアゾピリド)(NC-656)	除草剤	自社開発	抵抗性イネ科雑草(ヒエ・アゼガヤ)に優れた効果を持つ。当社初の水稲用茎葉除草剤(ピーク時売上高目標100億円)

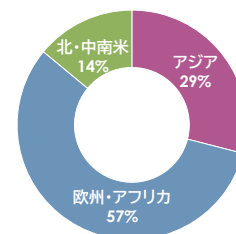
既存製品

新製品群
パイプライン

農業化学品セグメントの輸出比率(2022年度実績)※3



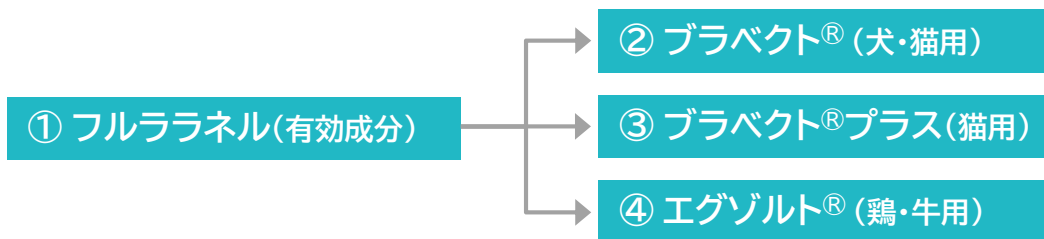
- 地域別分布



新製品群のピーク時売上高目標合計
310億円

※1 MSD社:米国メルク社のアニマルヘルス事業部門のMSD Animal Health 社の略称 ※2 ブラバクト®・エグゾルト®:MSD社の販売製品名 ※3 フルララネルを含める

- 当社が発明した化合物「フルララネル」を有効成分とするブラベクト®シリーズ・エグゾルト®は現在100か国以上で販売中
- ブラベクト®最大の特徴は12週間にわたる効果持続性(既存製品は1か月程度)



① フルララネル(Fluralaner)

- ブラベクト®・エグゾルト®の有効成分。当社がMSD社※1に供給
- これまでのペット用外部寄生虫薬とは異なる新たな作用機序を有している
- 化合物特許
 - 2025年3月に終了するが、多数の国で延長制度あり
 - UK、ドイツ、フランス等一部欧州諸国では、2029年2月まで延長済み、米国は延長申請中

② ブラベクト® (BRAVECTO®)

- MSD社が開発したペット用外部寄生虫薬。犬・猫のノミ、マダニの主要種に対し即効性に優れる
- 通常1か月毎に投薬する既存製品より殺虫効果の持続性が長く、12週間※2にわたって持続する
- 犬向けチュアブルタブレット(経口投与製剤)
 - 2014年4月欧州、以降米国、日本等で上市、2019年7月中国上市
 - 2020年7月1か月剤(子犬向け)米国上市
- 犬、猫向けスポットオン製品(経皮投与製剤)
 - (猫)2016年7月欧州、以降米国、日本等上市
 - (犬)2017年1月米国・欧州等上市、2021年1月日本上市

③ ブラベクト®プラス (BRAVECTO® Plus)

- 猫向け内外寄生虫スポットオン合剤
 - 2018年7月欧州、以降米国等上市、2021年1月日本上市

④ エグゾルト® (EXZOLT®)

- 鶏向けワクモ駆除剤(飲水投与)
 - 2017年9月欧州、以降韓国、中東等上市、2021年7月日本上市
- 牛向け
 - 2022年5月メキシコ販売承認、9月ブラジル上市

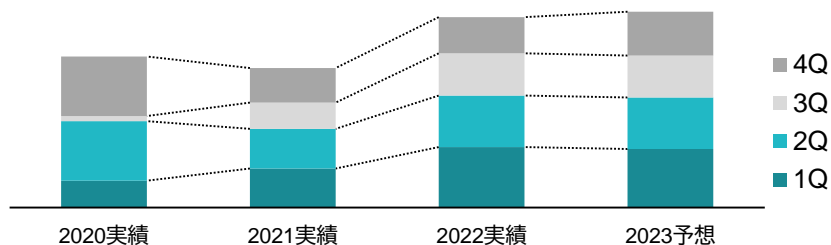
※1 米国メルク社のアニマルヘルス事業部門のMSD Animal Health 社の略称

※2 クリロコイタマダニは8週間

■ 当社のフルララネル売上高の構成

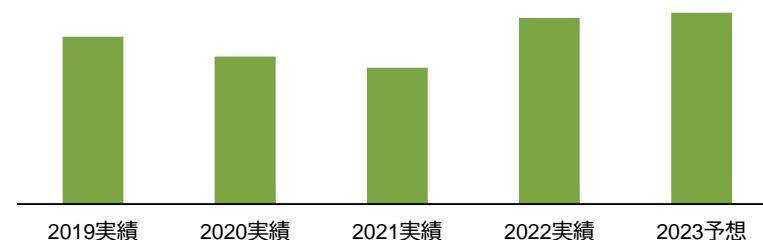
MSD社へのフルララネル販売 + MSD社からのランニングロイヤリティ(RR)

■ 2020～2023年度 四半期別売上高推移 (RR収入含む)



ロイヤリティ収入は、2020年度まで2・4Q計上であったが、会計方針の変更にともない、2021年度からは各四半期に計上されている(p74参照)

■ 2019～2023年度 売上高推移イメージ (RR収入含む)



- ・フルララネルの在庫調整は2021年度で完了
- ・2022年度は、2021年度からの出荷後ろ倒しと円安影響により大幅増収。実績為替レートは136円/ドル
- ・2023年度の想定為替レートは128円/ドル

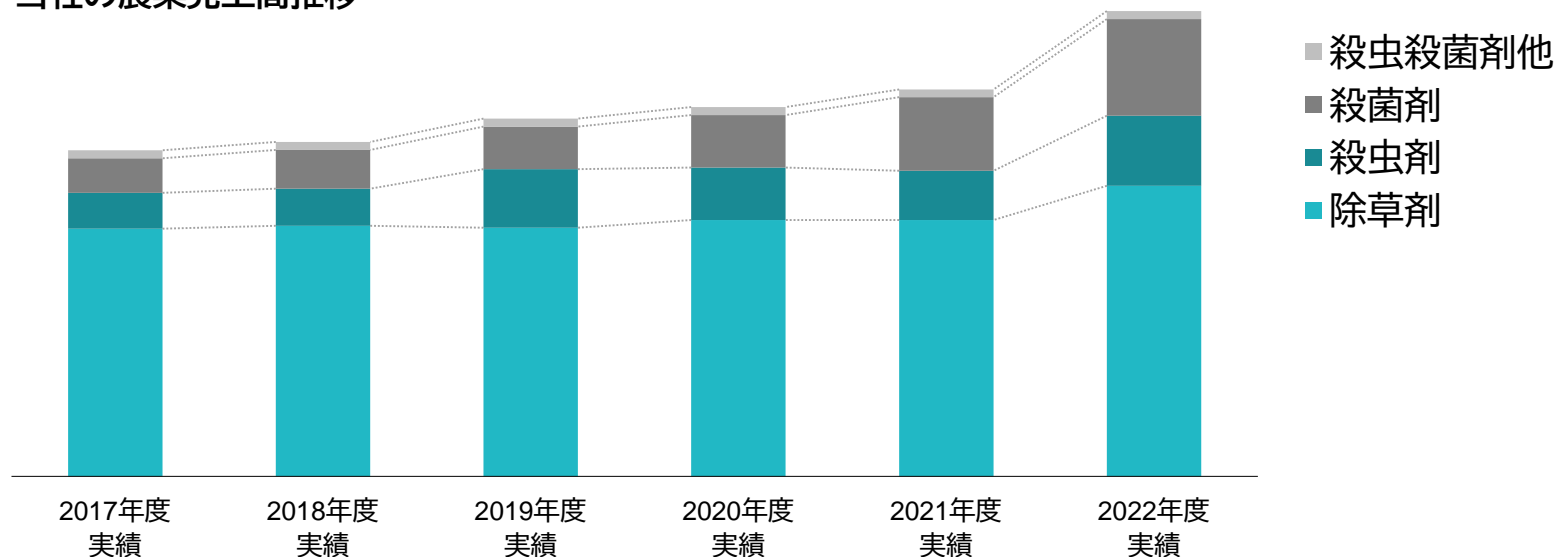
■ ブラバクト®の拡大に向けたMSD社の開発状況

- フルララネルを有効成分とするペット向けの新たな内外寄生虫薬、家畜向け経皮投与剤等をMSD社が開発中
- 2023年5月 犬向け外部寄生虫注射剤BRAVECTO Quantum™が豪州にて承認(特徴:12か月※1の効果持続性)

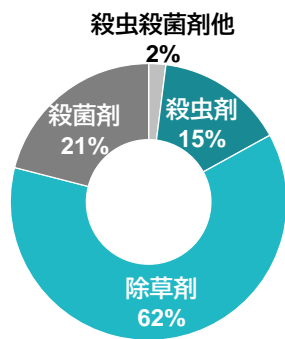
※1 クリロコイタマダニは11か月

既存剤の拡販、自社開発剤の上市、剤の買収・導入により、製品ポートフォリオの拡充を進める

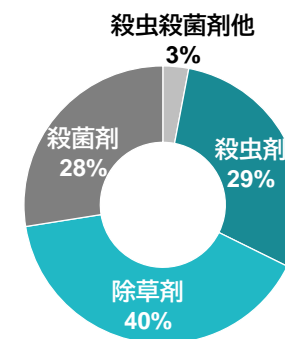
■ 当社の農薬売上高推移



■ 当社の農薬売上高構成比(2022年度)



【参考】
グローバル農薬市場売上高
構成比(2021年1-12月)



- グローバルな安定供給と製造コスト削減を目指した新たな原体生産拠点
- 計画通り設立完了し、2022年度よりNBRを連結子会社に追加。2023年3月から商業稼働を開始

Nissan Bharat Rasayan Private Limited(NBR)概要

本社所在地	ハリヤナ(Haryana)州グルガオン(Gurgaon)(ニューデリー近郊)
工場所在地	グジャラート(Gujarat)州サイカ(Saykha)に新設 (土地は同州産業開発公社(GIDC)より賃借)
営業開始日	2020年4月1日
事業内容	当社の農業(グレーシア、ライメイ等)原体を製造し、 当社へ販売
従業員数	約120名(2023年4月1日時点)
工場稼働時期	2022年度4Qより稼働開始
株主	当社70%、Bharat Rasayan Ltd(略称BRL)30%
取締役会	当社指名5名、BRL指名2名、中立1名、合計8名

Bharat Rasayan Ltd(BRL)概要

設立	1989年(インド大手農業製造販売会社)
上場	インド国立証取(NSE)、ボンベイ証取(BSE)
主要株主	グプタ(Sat Narain Gupta)会長等創業家一族75.05%
損益状況	2021年度売上高13,012百万ルピー、税引後利益1,760百万ルピー
工場	グジャラート州(Gujarat)ダヘジ(Dahej)、ハリヤナ州(Haryana) ロータク(Rohtak)の2工場
当社との関係	一部当社品を受託生産、グループ会社のBharat Certis Agriscienceが タルガ、パルサー、パーミットをインド国内で販売

資金計画 (2022年5月発表時点)

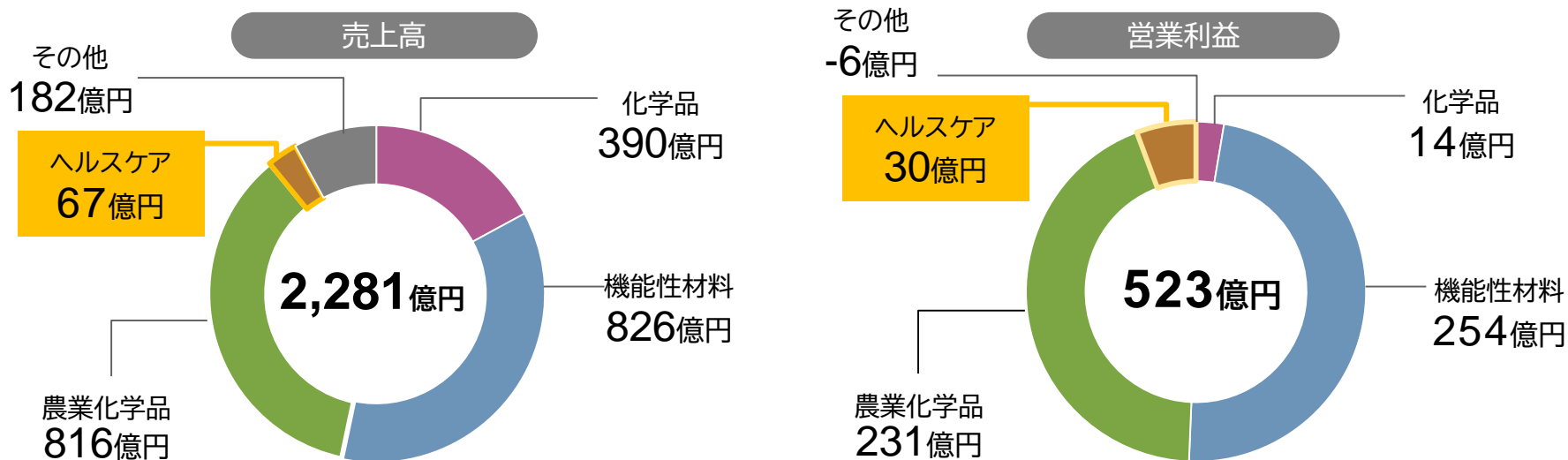
(億円)

設備投資	60	資本金	23
運転資金他	28	当社貸付	65
所要資金合計	88	資金調達合計	88

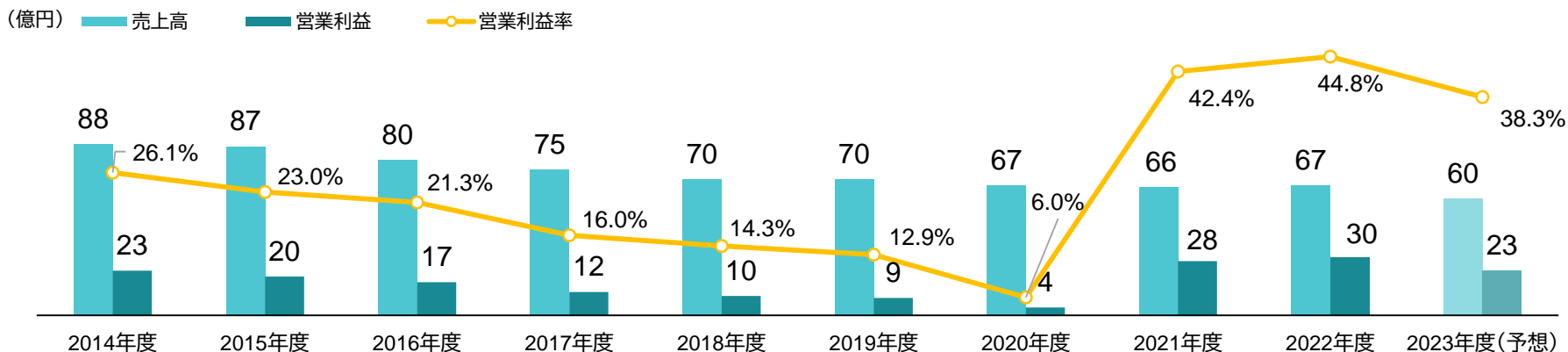
当社メリット

- 信頼できる経験豊富な現地パートナーの協力体制
- 有効成分の供給源の多様性・安全性確保と、原料不足リスクの低減
- 国内工場に比べて低い製造コスト
- すぐに利用できる工場用地(借地権の正式認可手続き完了済み)
- 既存の現地企業のM&Aに比べ、経営・財務リスクを大幅に軽減

2022年度セグメント別業績



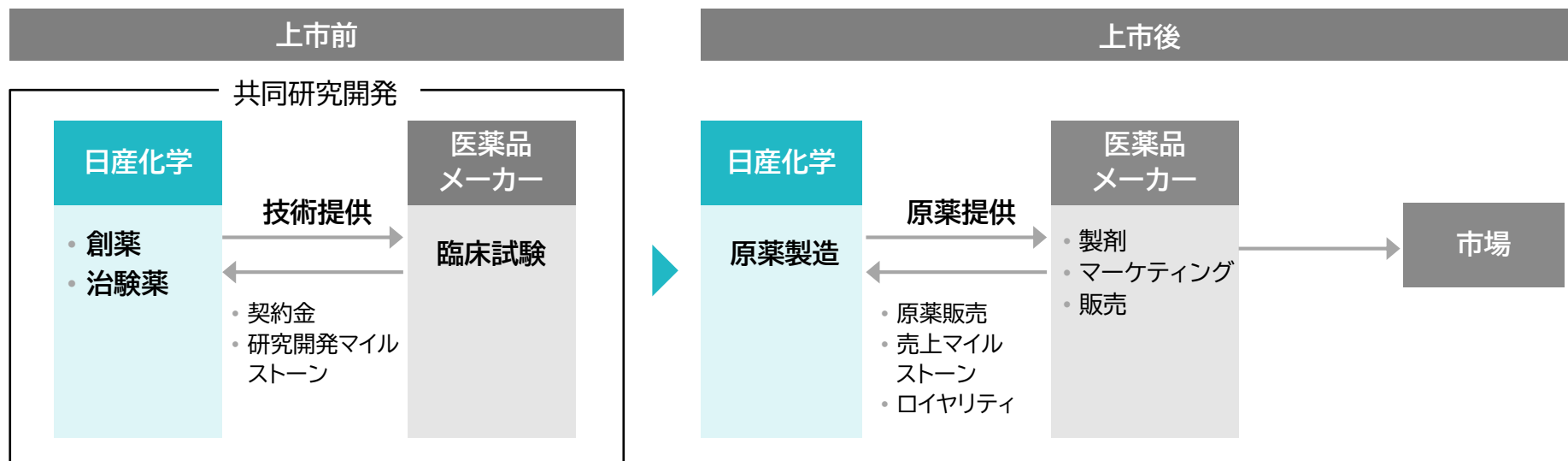
ヘルスケアセグメント業績推移※1



※1 2022年4月に組織改定を実施。2014～2020年度実績は旧セグメント区分。2021年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p75,p76参照)

医療用医薬品の創薬・開発に特化し販売部門を有さないユニークなビジネスモデルを確立

創薬ビジネスモデル



リバロ

2003年に興和から上市した高コレステロール血症治療薬。現在、世界30か国以上で販売中 (億円)

売上高の推移	2013年度※1	2020年度※2	2021年度	2022年度	2023年度 予想
当社原薬 (国内外合計)	102	28	23	23	21
前年同期比成長率	-2%	-30%	-17%	0%	-7%
うち国内	-2%	+6%	+30%	-17%	-29%
うち海外	-1%	-35%	-28%	+7%	-1%

※1 2013年8月 国内物質特許満了 ※2 2020年8月 欧州で市場独占期間満了

課題解決型受託事業として、前臨床から商業生産まで新薬の原薬・中間体製造プロセス研究を受託。
特に近年は高活性・高付加価値ジェネリック原薬を中心に新規案件獲得に注力

高付加価値ジェネリック原薬の販売状況

販売開始年度	原薬	用途
2016	マキサカルシトール	尋常性乾癬／二次性副甲状腺機能亢進症治療
2017	エルデカルシトール	骨粗しょう症治療

ファインテック業績推移

■ 売上高の推移 (2014～2023年度)

(億円)

2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023 予想
18	23	24	25	26	29	38	42	43	38

■ 前年同期比 売上高成長率 (2021～2023年度)

2021 実績			2022 実績			2023 予想		
上期	下期	年間	上期	下期	年間	上期	下期	年間
+29%	-2%	+11%	-6%	+12%	+4%	+14%	-30%	-12%

【下期】売上高+1.7億円、営業利益+1.0億円 【年間】売上高+0.8億円、営業利益+1.8億円

(億円)

	2021年度 実績					2022年度 実績					前年同期比				
	上期	3Q	4Q	下期	年間	上期	3Q	4Q	下期	年間	上期	3Q	4Q	下期	年間
売上高	33.4	19.2	13.3	32.5	65.9	32.5	15.9	18.3	34.2	66.7	-0.9	-3.3	+5.0	+1.7	+0.8
ヘルスケア	14.1	4.8	5.3	10.1	24.2	14.2	3.5	5.8	9.3	23.5	+0.1	-1.3	+0.5	-0.8	-0.7
ファインテック	19.3	14.4	8.0	22.4	41.7	18.3	12.4	12.5	24.9	43.2	-1.0	-2.0	+4.5	+2.5	+1.5
営業利益	13.8	9.2	5.1	14.3	28.1	14.6	6.6	8.7	15.3	29.9	+0.8	-2.6	+3.6	+1.0	+1.8
ヘルスケア	5.2	1.5	1.7	3.2	8.4	6.3	1.0	2.0	3.0	9.3	+1.1	-0.5	+0.3	-0.2	+0.9
ファインテック	8.6	7.7	3.4	11.1	19.7	8.3	5.6	6.7	12.3	20.6	-0.3	-2.1	+3.3	+1.2	+0.9

※ p19,p20,p21,p71,p72,p73では億円未満を四捨五入して表示しており、これにより本ページの数字と合致しない場合がある

※ 2021年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p75,p76参照)

【下期】減収・利益横ばい 【年間】減収・増益

ヘルスケア

リパロ

【下期】減収(国内減収、輸出増収)
【年間】横ばい(国内減収、輸出増収)

【下期】【年間】ともに固定費減少(増益要因)

【下期】増収・増益 【年間】増収・増益

ファイン
テック

【下期】【年間】ともに増収

【年間】売上高-6.3億円、営業利益-6.8億円

(億円)

	2022年度 実績					2023年度 予想					前年同期比				
	1Q	2Q	上期	下期	年間	1Q	2Q	上期	下期	年間	1Q	2Q	上期	下期	年間
売上高	16.5	16.0	32.5	34.2	66.7	18.8	13.7	32.5	27.9	60.4	+2.3	-2.3	0.0	-6.3	-6.3
ヘルスケア	8.3	5.9	14.2	9.3	23.5	6.1	5.6	11.7	10.6	22.3	-2.2	-0.3	-2.5	+1.3	-1.2
ファインテック	8.2	10.1	18.3	24.9	43.2	12.7	8.1	20.8	17.3	38.1	+4.5	-2.0	+2.5	-7.6	-5.1
営業利益	7.6	7.0	14.6	15.3	29.9	9.7	5.5	15.2	7.9	23.1	+2.1	-1.5	+0.6	-7.4	-6.8
ヘルスケア	3.9	2.4	6.3	3.0	9.3	2.7	2.1	4.8	2.6	7.4	-1.2	-0.3	-1.5	-0.4	-1.9
ファインテック	3.7	4.6	8.3	12.3	20.6	7.0	3.4	10.4	5.3	15.7	+3.3	-1.2	+2.1	-7.0	-4.9

※ p19,p20,p21,p71,p72,p73では億円未満を四捨五入して表示しており、これにより本ページの数字と合致しない場合がある

【年間】減収・減益

ヘルスケア

リバロ

減収(国内減収、輸出横ばい)

【年間】減収・減益

ファイン
テック

減収(受託品の顧客在庫調整、ジェネリック原薬の価格調整)

Contents

01

2022年度通期 連結決算報告

P3

02

2023年度通期 業績予想

P8

03

セグメント概況

P18

04

2026年度の売上高イメージ

P48

05

ESGトピックス

P52

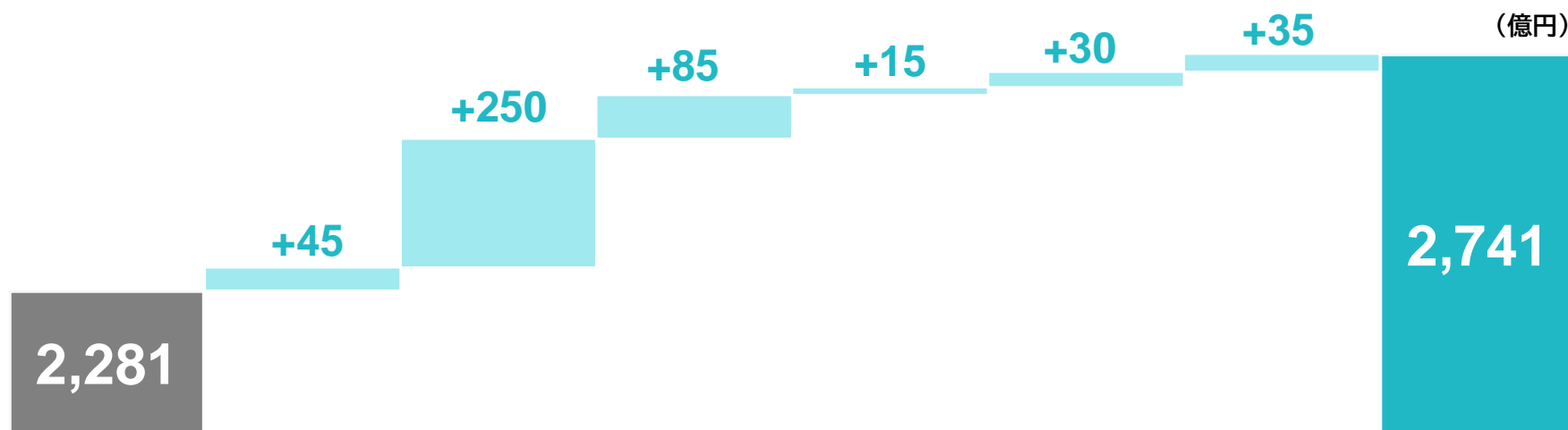
06

参考資料

P61

2026年売上高イメージ(全社)

全社合計で、2022年実績2,281億円に対し、2026年は20%増の2,741億円のイメージ



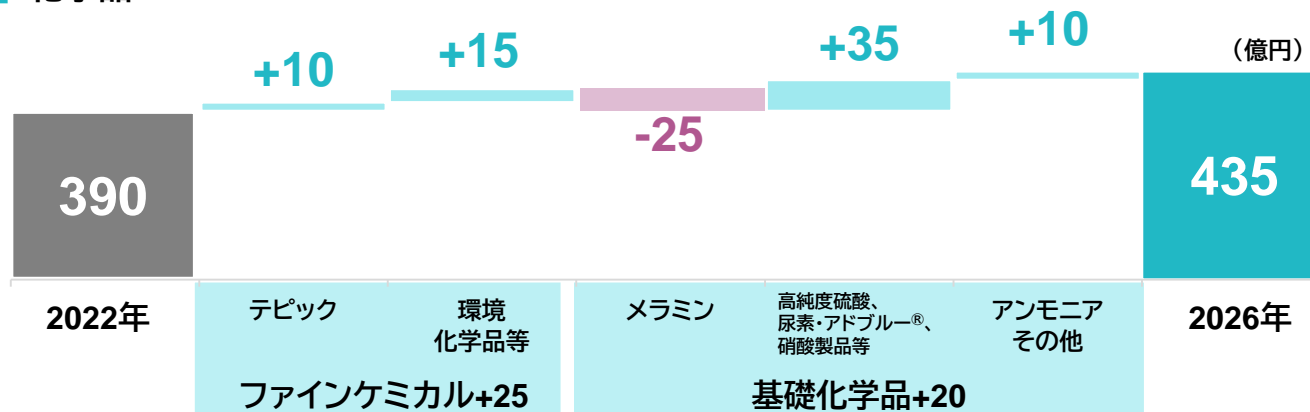
2022年	化学品	機能性材料	農業化学品	ヘルスケア	新分野	その他 ^{※2}	2026年
2022→2026 売上高成長率	+12%	+30%	+10%	+22%			+20%
(参考)							
2021→2026 売上高成長率	+16%	+32%	+37%	+24%			+32%

※1 増減は5億円刻みで表示

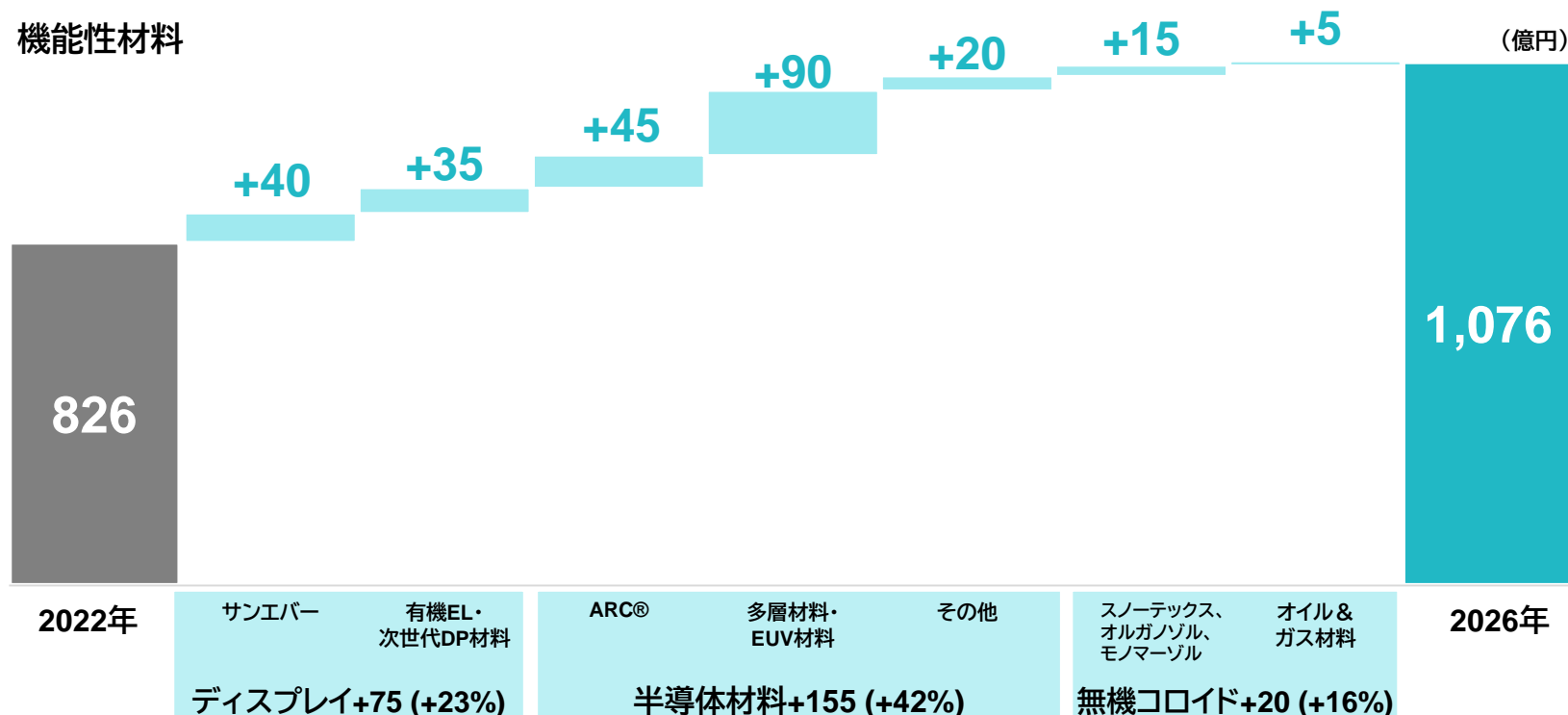
※2 卸売・その他・調整額

2026年売上高イメージ(化学品・機能性材料)

化学品



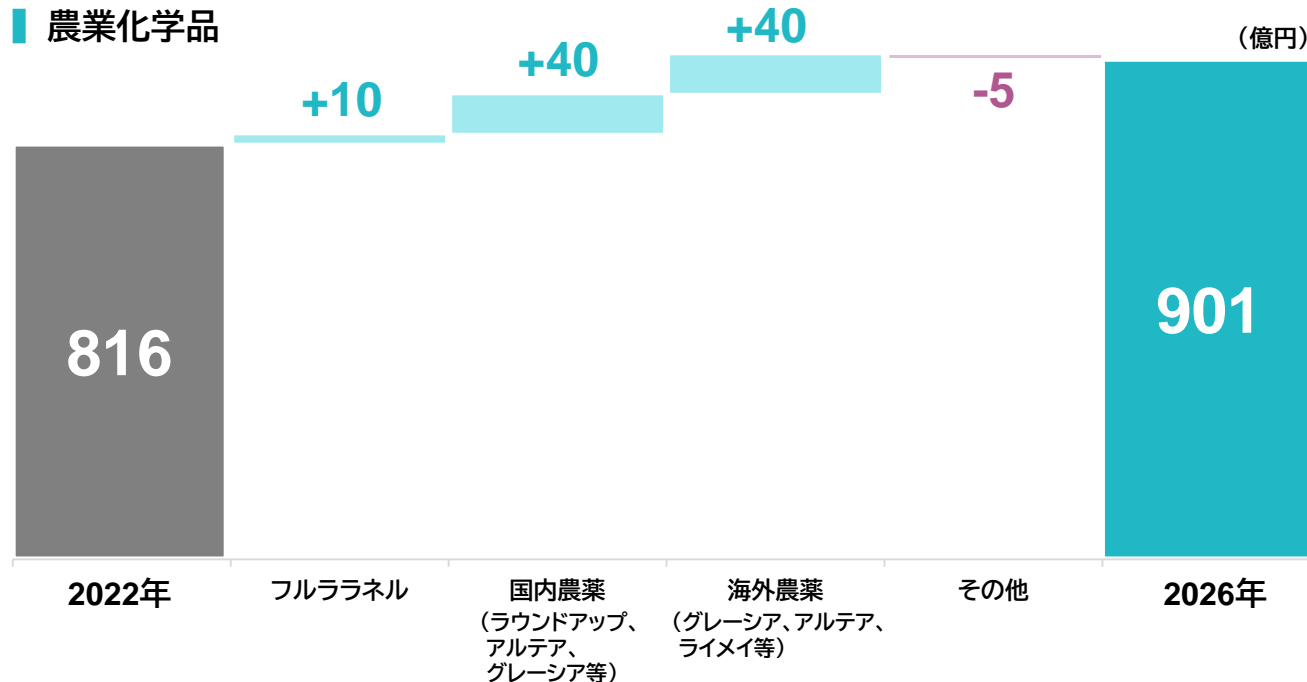
機能性材料



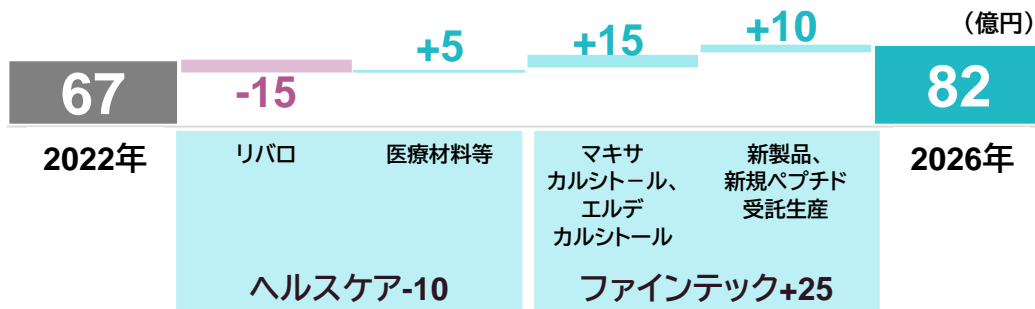
※ 増減は5億円刻みで表示、機能性サブセグメントの増減率は4年間の売上高成長率

2026年売上高イメージ(農業化学品・ヘルスケア・新分野)

農業化学品



ヘルスケア



新分野(増加額:合計30億円)

分野	製品
情報通信	FOWLP用RDL材料 光配線材料
環境エネルギー	二次電池材料

Contents

01

2022年度通期 連結決算報告

P3

02

2023年度通期 業績予想

P8

03

セグメント概況

P18

04

2026年度の売上高イメージ

P48

05

ESGトピックス

P52

06

参考資料

P61

E

(環境)

S

(社会)

- 2021年4月 ダイバーシティステートメントおよびダイバーシティビジョンを設定
- 2022年5月 2050年にカーボンニュートラルへ
温室効果ガス(GHG)排出削減長期目標を設定(詳細はp60参照)
- 2022年6月 メラミン停止によるGHG削減(26千トン、2018年度実績の約7%に相当)
- 2022年6月 気候変動対策委員会設置
- 2022年9月 「[統合レポート2022](#)」を発行

G

(ガバナンス)

- 2019年4月 指名・報酬諮問委員会設置(取締役会の任意の諮問機関)
- 2019年6月 取締役等を対象に業績連動型株式報酬制度導入(株式給付信託)
- 2022年6月 役員報酬体系にESG指標を組入れ(基本報酬65%、業績報酬28%、株式報酬7%
業績報酬28%のうち、利益連動部分90%、ESG連動部分10%)
- 2022年6月 「[コーポレートガバナンス報告書](#)」を更新(取締役会のスキルマトリックスを含む)
- 2023年6月予定 女性取締役(社外)2名選任(選任後、取締役は計10名、うち社外4名)

Dow Jones Sustainability Asia Pacific Index

- 2022年12月
5年連続で構成銘柄に選定

Member of
**Dow Jones
Sustainability Indices**
Powered by the S&P Global CSA

S&P/JPX カーボン・エフィシエント指数

- 2022年3月
4年連続で構成銘柄に選定



FTSE

- 2022年6月 FTSE4Good Index Series、FTSE Blossom Japan Indexの構成銘柄に3年連続選定
- 2022年4月 FTSE Blossom Japan Sector Relative Indexの構成銘柄に選定

※ FTSE Russell (FTSE International Limited と Frank Russell Companyの登録商標)はここに日産化学株式会社が第三者調査の結果、FTSE Blossom Japan Sector Relative Index組み入れの要件を満たし、本インデックスの構成銘柄となったことを証します。FTSE Blossom Japan Sector Relative Indexはサステナブル投資のファンドや他の金融商品の作成・評価に広く利用されます。



MSCI 日本株女性活躍指数 (WIN)

- 2022年12月 3期連続構成銘柄に選定

2022 CONSTITUENT MSCI日本株
女性活躍指数 (WIN)

※ MSCI指数への日産化学株式会社の組み入れ、および本ページにおけるMSCIロゴ、商標、サービスマーク、または指数名称の使用は、MSCIまたはその関係会社による日産化学株式会社の後援、保証、または販売促進ではありません。MSCI指数は、MSCIの独占的財産です。MSCIおよびMSCI指数の名称とロゴは、MSCIまたはその関係会社の商標またはサービスマークです。

健康経営優良法人 -ホワイト500-

- 2023年3月 7年連続認定



「子育てサポート企業」くるみん

- 2023年1月 2回連続認定



GPIFの運用機関が選ぶ統合報告書

- 2022年2月 「優れた統合報告書」に2年連続選定
- 2023年2月 「改善度の高い統合報告書」に選定

気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)

- 2020年8月に賛同表明



GXリーグ

- 2023年2月に賛同表明
- 2023年4月から参画



2027年の企業像実現のため、当社が取り組むべきマテリアリティ(重要課題)を特定
取り組みを推進することで社会とともに持続的な成長を目指す

▶▶▶1

人びとの暮らしに役立つ
新たな価値の提供

▶ 日産化学サステナブル
アジェンダ※1

社会課題解決に貢献する製品・
サービスの全売上に占める割合
55%以上維持

※1 社会課題解決に貢献する製品・サービスの提供により、
「地球と人の未来のためにできること」を追求する計画

▶▶▶2

自社事業基盤の強化

▶ 人材の確保・育成
人材育成に関する社員意識調査
肯定回答率
65%以上

▶ ダイバーシティ推進
研究所女性総合職比率 **18%以上**

▶▶▶3

レスポンシブル・ケア活動の
継続的強化

▶ GHG排出削減目標
2018年度比 **30%以上削減**

当社グループの最重要課題

コーポレート・ガバナンス、リスクマネジメント、コンプライアンスの強化

コア技術の鍛錬と育成により、4事業を通じて、社会課題解決に貢献する製品・サービスを提供する

マテリアリティ要素	主な取り組み
環境配慮型製品・サービスの提供	<ul style="list-style-type: none"> ■ 再生可能エネルギー拡大に貢献する材料の開発 ■ サーキュラーエコノミー実現に貢献する材料の開発 ■ 農薬散布量の削減 ■ リサイクル可能な包材の導入 ■ 排ガス除去材料の提供 ■ 浄化槽の殺菌・消毒剤及び水処理剤の提供 ■ 油脂廃棄物削減を可能にする材料の提供
スマート社会への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ■ データ通信の大容量化・高速化、センシングに貢献する材料の提供
食料問題への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ■ 食料生産の収量拡大と省力化を実現する農薬の提供 ■ 家畜の健康維持への貢献
生活の質の向上への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ■ 飲料水用殺菌消毒剤の提供 ■ ペット用動物薬原薬の提供
健康問題への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ■ ジェネリック医薬品の提供 ■ 医薬品受託製造・サービスの提供 ■ 再生医療分野向け材料の開発 ■ 難治性疾患治療薬の開発

コア技術の鍛錬と育成により、4事業を通じて、社会課題解決に貢献する製品・サービスを提供する

マテリアリティ要素	主な製品・サービス	2027年度目標 (2021年度比)
環境配慮型製品・サービスの提供	<ul style="list-style-type: none"> ■ 二次電池材料 ■ 光電変換材料 ■ CCU/CCUS材料 ■ エコプロモート ■ ラウンドノズル ULV5 ■ グリーンダイセン <ul style="list-style-type: none"> ■ アドブルー® ■ ハイライト、ウレオライト ■ ビーナソイルクリーン 	売上高 +10%
スマート社会への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ■ ディ스플레이材料 ■ 半導体材料 ■ センサー材料 <ul style="list-style-type: none"> ■ 光配線材料 	売上高 +55%
食料問題への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ■ 農薬 ■ フルララネル(家畜用) 	売上高 +15%
生活の質の向上への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ■ ハイライト(飲料水用) ■ フルララネル(ペット用) 	売上高 +15%
健康問題への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ■ マキサカルシトール他 ジェネリック医薬品 ■ 医薬品受託製造・サービス ■ 核酸医薬品 <ul style="list-style-type: none"> ■ FCeMシリーズ ■ prevelexシリーズ 	売上高 +5%
社会課題解決に貢献する製品・サービスの全売上に占める割合	日産化学サステナブルアジェンダ	55% 以上維持

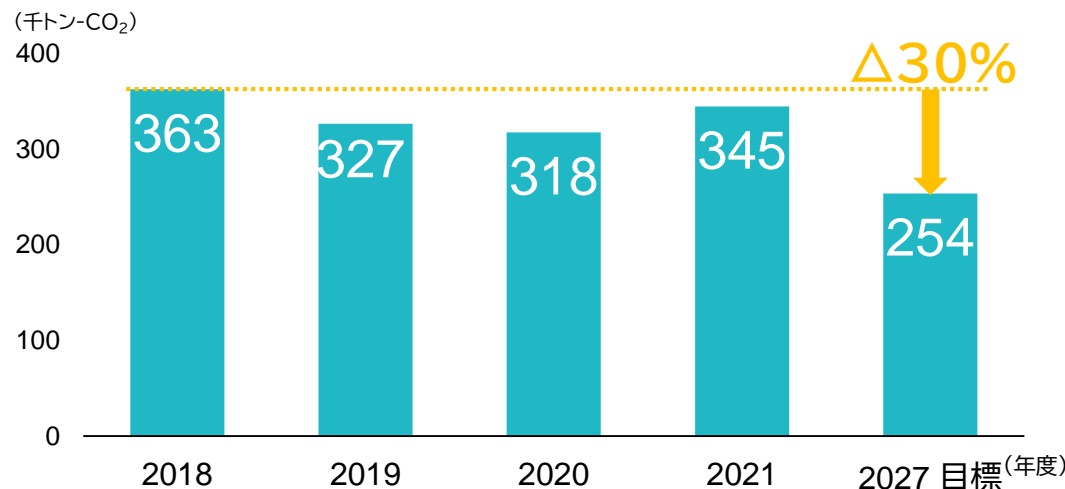
多様化・高度化する市場要求への対応力を高めるため、人的資本の充実など、事業基盤を強化する

マテリアリティ要素	主な取り組み	2027年度目標
研究開発力の強化	<ul style="list-style-type: none"> ■ AIの活用による研究開発の迅速化 ■ コア技術の拡充 ■ オープンイノベーションの更なる活用 	特許出願数(2022~2027年度累計):2,500件
製品の品質向上	<ul style="list-style-type: none"> ■ 重大クレームの未然防止 ■ 品質不正・データ改ざんの未然防止 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 重大クレーム数 ゼロ件 ■ 品質教育:受講率90%以上
従業員の健康維持向上	<ul style="list-style-type: none"> ■ 生活習慣病対策の推進 ■ メンタルヘルス対策の実施 ■ 社員への健康維持に関する啓蒙活動 ■ 女性の健康づくり推進 	適正体重者※:70%以上 ※BMI(肥満度)指数:18.5-25.0
働きやすい職場づくり	<ul style="list-style-type: none"> ■ ワークライフバランスの推進 ■ ハラスメント対策の実施 ■ 育児・介護支援、男性育休取得推奨 	年次有給休暇取得率:80%以上
人材の確保・育成	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新人事制度(役割等級制度)導入 ■ キャリア開発強化 ■ 自己啓発支援プログラムの充実 	人材育成に関する社員意識調査 肯定回答率:65%以上
ダイバーシティの推進	<ul style="list-style-type: none"> ■ 女性の活躍推進 ■ 外国人留学生の採用 ■ 障がい者雇用の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 総合職に占める女性比率:13%以上 ■ 研究所女性総合職比率:18%以上
公正な取引の推進	<ul style="list-style-type: none"> ■ 公正な取引に関する社内研修会の開催、その他の教育啓蒙活動の実施 ■ コンプライアンス教育啓蒙活動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 独禁法違反ゼロ ■ 外国公務員贈賄ゼロ
サステナブル調達への推進	<ul style="list-style-type: none"> ■ サステナブル調達アンケート結果のフィードバック ■ 当社基準未達サプライヤーへの改善支援 	当社基準未達サプライヤーへの改善支援:90%以上
気候変動への適応	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自然災害発生時における事業活動のレジリエンス維持向上 	経常利益50%を占める製品のBCP更新整備

2050年のカーボンニュートラル実現に向け、GHG排出量の削減を中心にレスポンシブル・ケア活動に継続的に取り組む

マテリアリティ要素	主な取り組み	2027年度目標
気候変動の緩和	<ul style="list-style-type: none"> ■ GHG排出量の削減 	GHG排出量:2018年度比30%削減 (2030年度目標を3年前倒し)
労働安全衛生の推進	<ul style="list-style-type: none"> ■ 労働安全マネジメントの強化 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 休業災害ゼロ ■ 労災件数:2020年度比半減
生物多様性への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ■ 生物多様性保全活動の推進 	日産化学本社工場におけるバイオパーク設置・運営
化学物質の管理	<ul style="list-style-type: none"> ■ 化学物質使用に関する法令遵守 	重大法令違反ゼロ継続
産業廃棄物・汚染物質の排出削減	<ul style="list-style-type: none"> ■ 産業廃棄物・汚染物質最終処分量の削減 	日産化学本社工場での最終処分割合削減 (2020年度比)
保安・防災	<ul style="list-style-type: none"> ■ 保安防災マネジメントの強化 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 火災・爆発・外部漏洩ゼロ ■ 保安事故ゼロ

- 2050年のカーボンニュートラル実現に向け、従来の取り組みに加え、生産技術の改善や再生エネルギー導入などに注力する
- 2021年度のGHG排出量は、2020年度比で27千トン-CO₂増加
 (増加要因) ・アンモニア系製品の生産量増加により、製造時のCO₂排出量、天然ガス使用量、電力使用量の増加
 ・硝酸製品の生産量増加により、製造時のN₂O排出量の増加
 ・富山共同自家発電の工事(水力発電供給減少)により、非再生可能電力の使用量増加



他社とのGHG排出量の比較

(千トン-CO₂)

年度	2011	2018	2019	2020	2021
日産化学	448	363	327	318	345
大手総合化学4社平均 (単体ベース)	-	-	5,845	5,581	-

中期経営計画 Vista2027 (2022-2027年度)における取り組み

- 硝酸プラントからのN₂O排出ゼロ
(予定投資額 500百万円 変動費50百万円/年)
- メラミン製造中止
- 小野田工場燃料転換
- ICP本格導入によるGHG排出削減推進
- フロン機器の削減
- 省エネ機器への更新

Contents

01

2022年度通期 連結決算報告

P3

02

2023年度通期 業績予想

P8

03

セグメント概況

P18

04

2026年度の売上高イメージ

P48

05

ESGトピックス

P52

06

参考資料

P61

中期経営計画 Vista2027(2022-2027年度)

セグメント別 売上高・営業利益

(億円)

		2021年度 実績 ^{※1}	2022年度 実績	2023年度 予想	2024年度 中計	2027年度 中計	2024年度 vs. 2021年度	2027年度 vs. 2021年度
化学品	売上高	376	390	413	376	401	0	+25
	営業利益	38	14	32	35	39	-3	+1
機能性材料	売上高	817	826	875	1,029	1,172	+212	+355
	営業利益	276	254	265	321	380	+45	+104
農業化学品	売上高	658	816	842	778	823	+120	+165
	営業利益	181	231	236	217	210	+36	+29
ヘルスケア	売上高	66	67	60	72	115	+6	+49
	営業利益	28	30	23	21	43	-7	+15
卸売・その他・ 調整額	売上高	163	182	183	295	339	+132	+176
	営業利益	-13	-6	-9	-9	-2	+4	+11
企画本部 ^{※2}	売上高	0	0	0	13	44	+13	+44
	営業利益	-49	-55	-57	-47	-47	+2	+2
合計	売上高	2,080	2,281	2,373	2,550	2,850	+470	+770
	営業利益	510	523	547	585	670	+75	+160

※1 2021年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p75,p76参照) ※2 企画本部は卸売・その他・調整額の内数

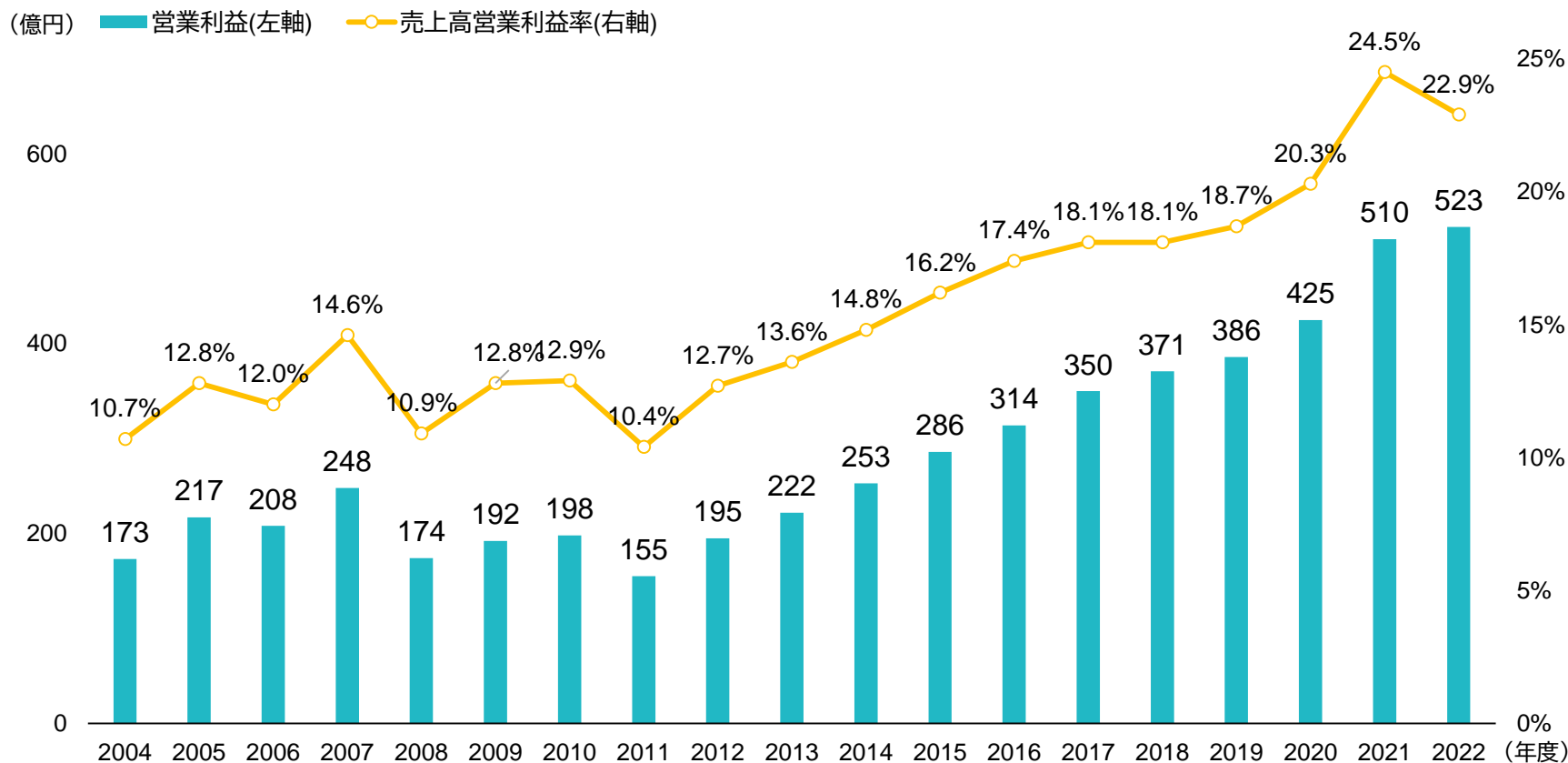
ヘルスケア事業部の組織改定の影響

(億円)

	2024年度 中計	2027年度 中計
研究開発費 企画本部移管影響	13	13

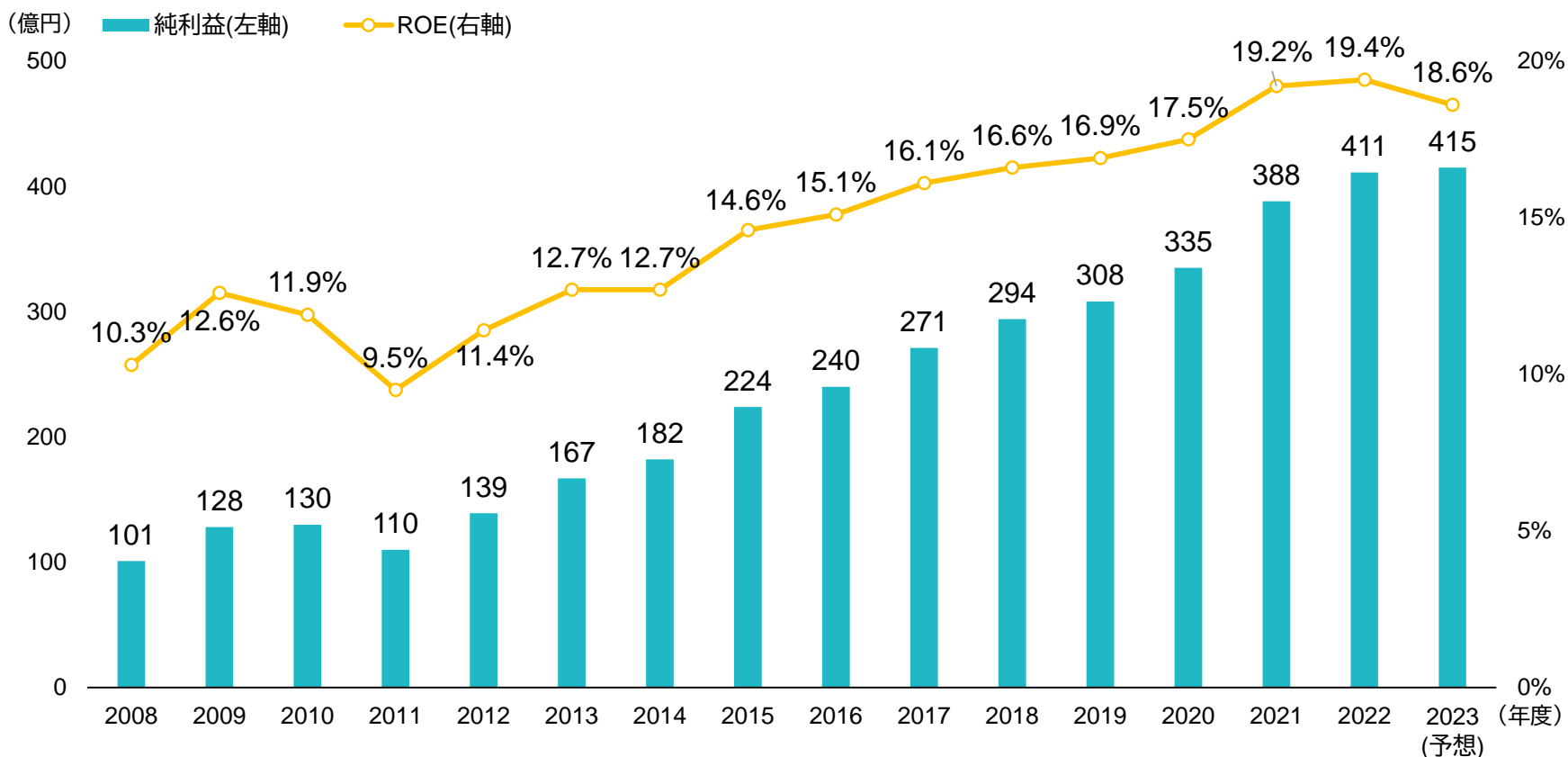
売上高営業利益率の推移

- 長期にわたり安定的かつ高い売上高営業利益率を維持(2003年度以降20年連続10%以上)
- 2022年度実績は22.9%

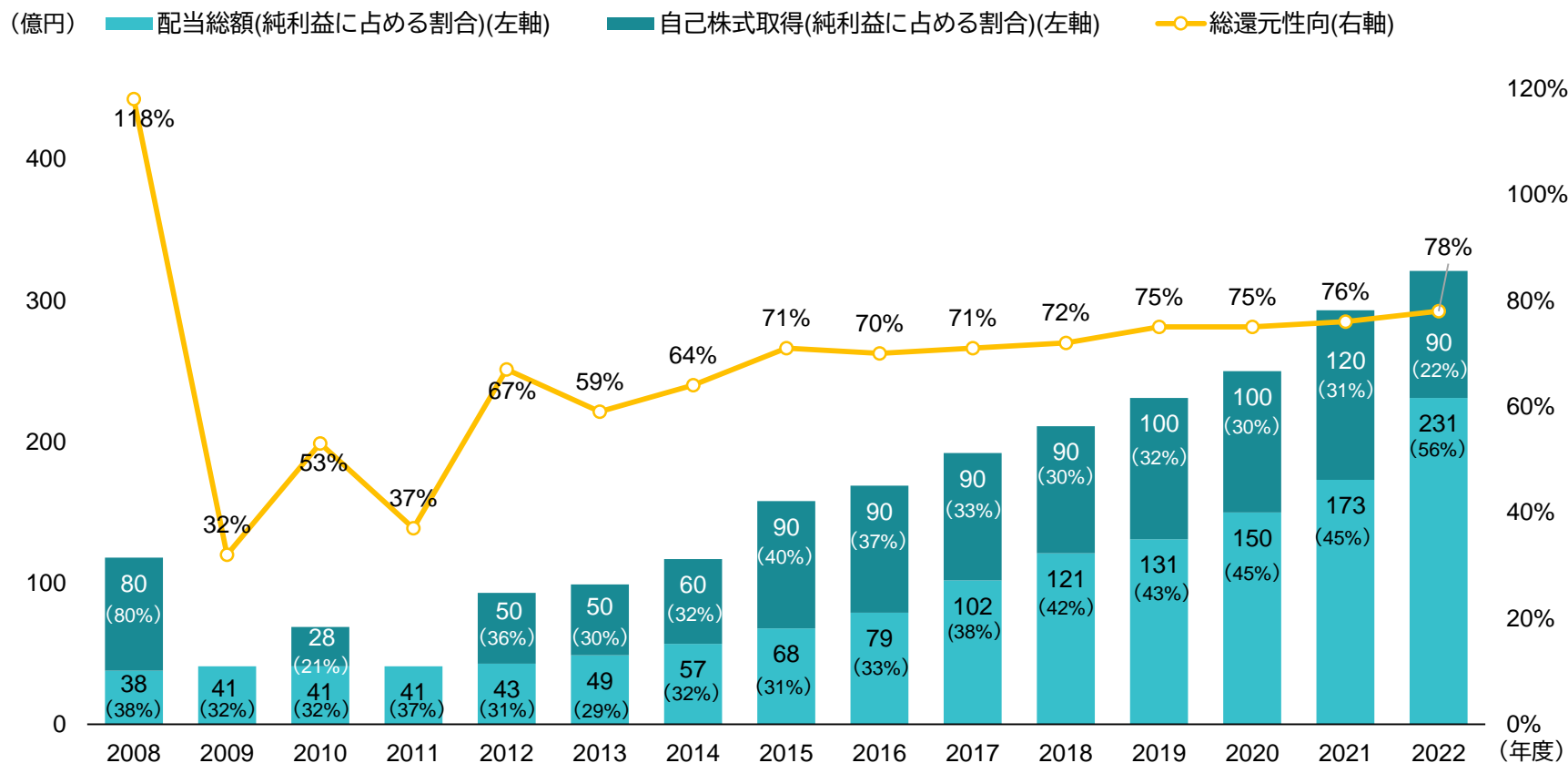


※ 2021年度実績:会計方針の変更影響を含む(p74参照)

- ROEを従前より最重要の経営指標とし、高水準を維持
- 前中期経営計画(2019-2021年度)では16%以上維持を目標に掲げ、達成
- 新中期経営計画(2022-2027年度)では18%以上維持が目標
- 2023年度予想は18.6%

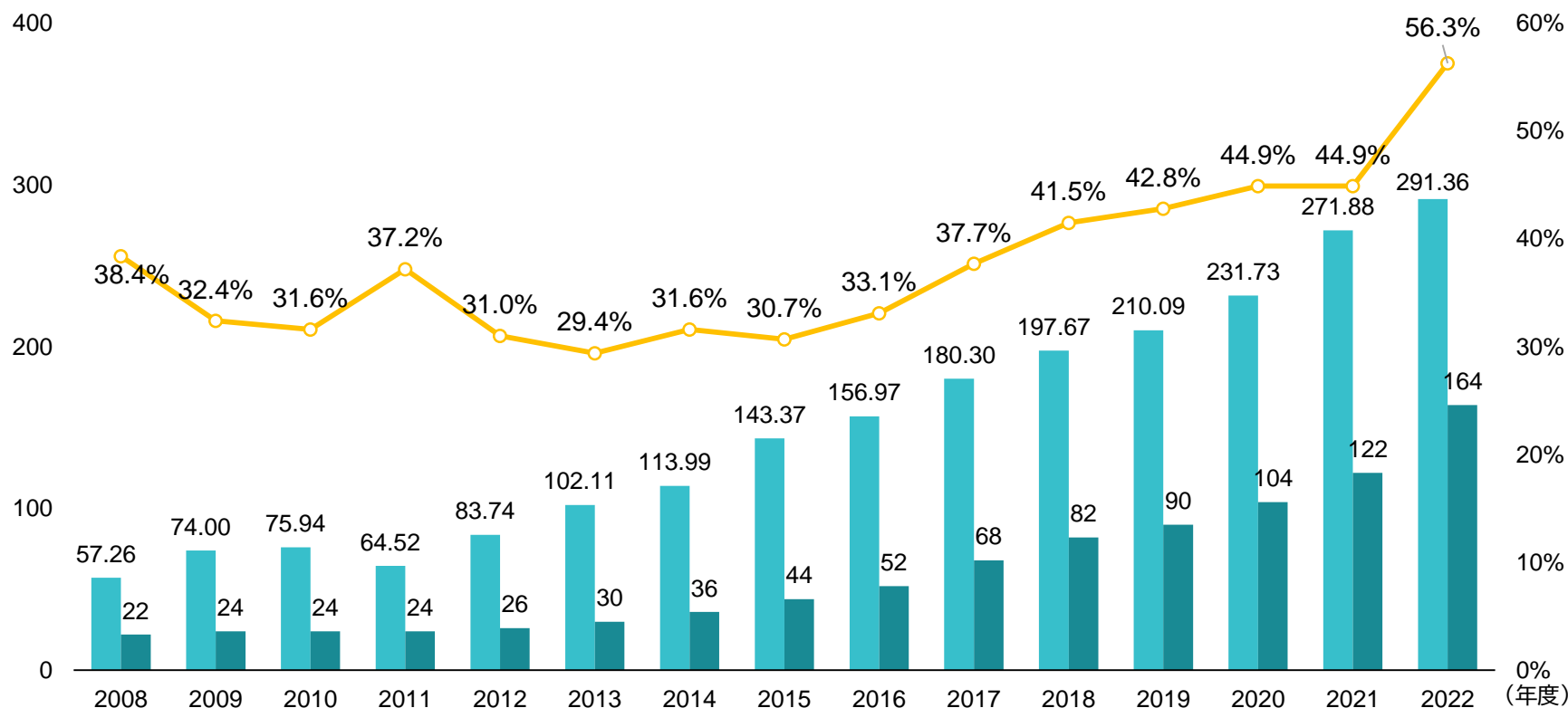


- 前中期経営計画(2019-2021年度)では、2019年度72.5%、2020年度以降75%が目標で、全て達成
- 新中期経営計画(2022-2027年度)では75%が目標(2022年度実績は78%)



- 2015年度30.7%から段階的に引き上げ、2021年度実績は44.9%
- 新中期経営計画(2022-2027年度)では45%から55%に引き上げ、直接的な株主還元をより重視
- 2012年度以降2022年度まで11期連続増配

(円/株) ■ EPS(左軸) ■ 配当(左軸) ● 配当性向(右軸)



ROE向上を目的に2006年度より開始。2006-22年度取得総額1,135億円、4,610万株(取得開始前発行済株式の24.6%)。取得株はすべて消却済。今後も自己株式を継続的に取得し、株主還元を強化
2023年5月に自己株式取得50億円を発表

2006-2022年度 自己株式取得実績(2009年度、2011年度は自己株式取得なし)

年度	2006	2007	2008	2010	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	合計
自己株式取得総数(千株) ^{※1}	3,500	3,399	7,355	2,167	6,372	3,263	2,764	3,333	2,621	2,292	1,682	2,138	1,829	2,033	1,356	46,104
取得価額総額(億円) ^{※1}	47	50	80	28	50	50	60	90	90	90	90	100	100	120	90	1,135
自己株式消却総数(千株)	3,000	3,635	7,000	3,000	6,000	4,000	3,000	2,000	2,000	3,000	2,000	3,000	1,000	2,000	1,700	46,335
発行済株式総数(百万株)	185	181	174	171	165	161	158	156	154	151	149	146	145	143	141	-
期末自己株式数(千株) ^{※2}	1,367	1,233	1,660	885	1,258	522	287	1,621	2,242	1,535	1,218	523	1,352	1,384	1,029	-
株主総還元性向 (配当+自己株式取得)(%)	60	56	118	53	67	59	64	71	70	71	72	75	75	76	78	-

2018-2023年度 自己株式取得・消却状況

年度	2018			2019			2020			2021			2022			2023
	上期	下期	年間	上期	下期	年間	上期	下期	年間	上期	下期	年間	上期	下期	年間	上期 ^{※3-4}
自己株式取得総数(千株) ^{※1}	976	706	1,682	1,270	868	2,138	1,334	495	1,829	1,262	771	2,033	683	673	1,356	1,250(上限)
取得価額総額(億円) ^{※1}	50	40	90	60	40	100	70	30	100	70	50	120	50	40	90	50(上限)
自己株式消却総数(千株) ^{※3}	2,000	0	2,000	2,000	1,000	3,000	1,000	0	1,000	2,000	0	2,000	1,700	0	1,700	700

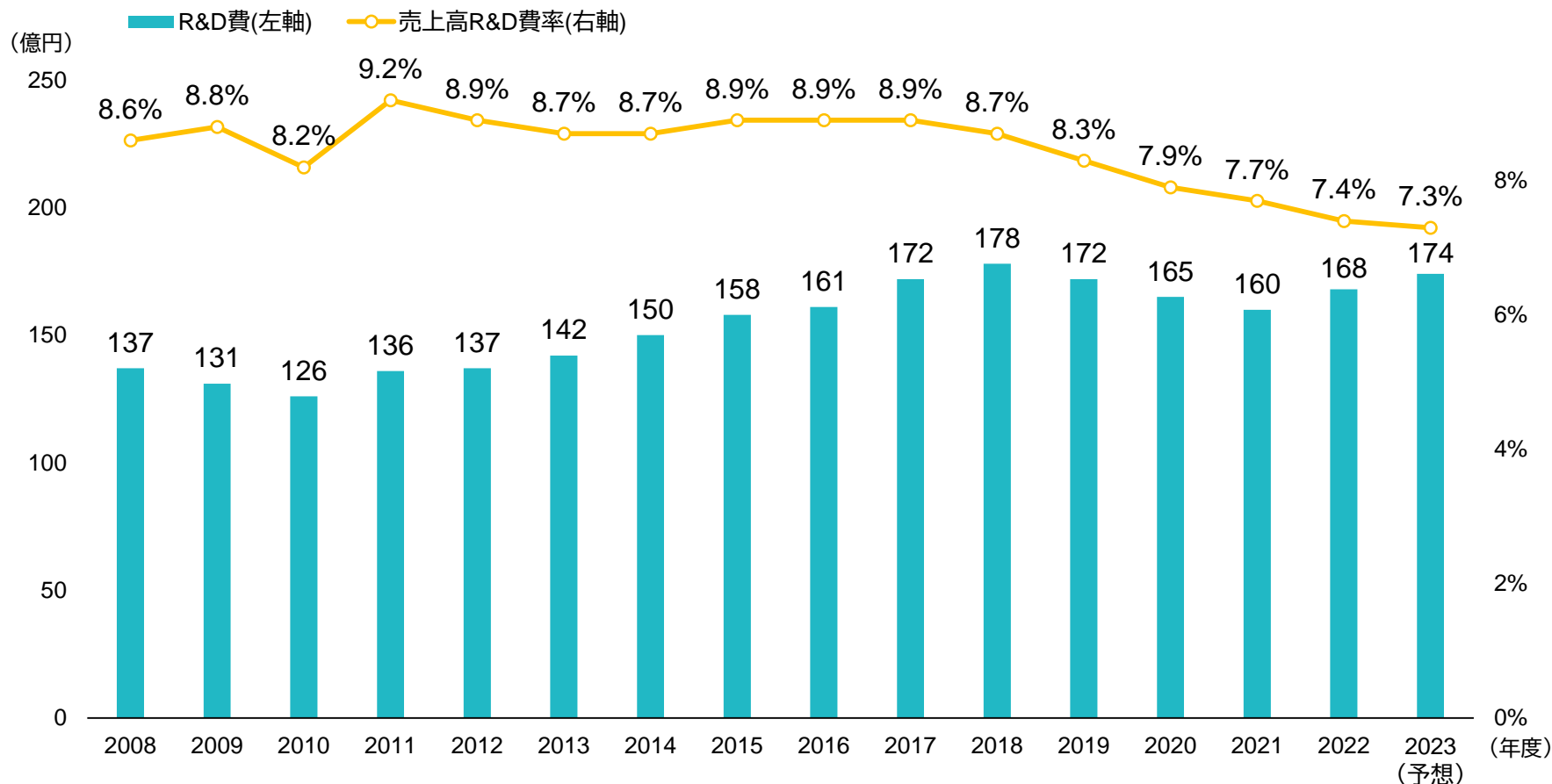
※1 単元未満株式買取、業績連動型株式報酬制度導入に伴う自己株式取得を除く ※2 単元未満株式、業績連動型株式報酬制度導入に伴う自己株式取得を含む

※3 自己株式取得は、2023年5月15日発表(取得期間:2023年5月16日~7月28日) ※4 自己株式消却は、2023年5月12日消却分

キャッシュマネジメント(単体ベース)

目標現預金残高水準 = 必要下限額 + 流動性リスク対応 [1/3×(長期借入金年間返済予定額 + 短期借入残)] + 偶発リスク対応

- 独自の革新的技術で社会の要請に応える未来創造企業として、研究開発を重視
- 売上高研究開発費率は7-9%と高水準を維持
- 2020-2021年度はコロナ禍で一時的にR&D費用減

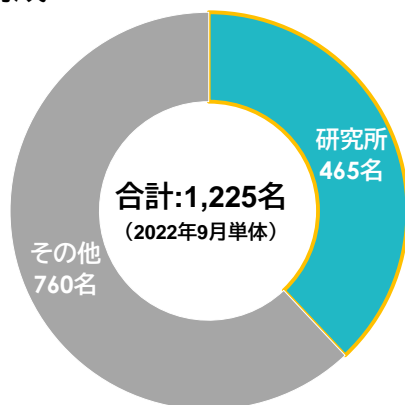


- R&Dに多額の投資を行ってもなお、会社全体で高い営業利益率を確保
- 総合職の約40%は研究開発に関わる人材

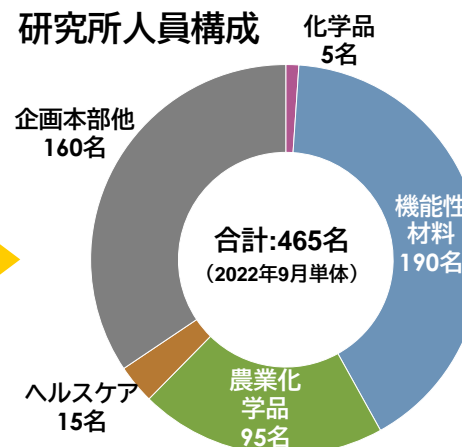
セグメント別研究開発費

セグメント	2022年度 実績				
	売上高 (億円)	営業利益 (億円)	売上高 営業利益率	R&D費 (億円)	売上高 R&D費率
化学品	390	14	3.6%	3	0.8%
機能性材料	826	254	30.8%	76	9.2%
農業化学品	816	231	28.3%	43	5.3%
ヘルスケア	67	30	44.8%	4	6.0%
企画本部他	-	-	-	42	-
合計(企画本部他含む)	2,281	523	22.9%	168	7.4%

総合職 人員構成



セグメント別 研究所人員構成



※ 表記している人数は概数

長期業績推移

(億円)

	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023 (予想)
売上高	1,614	1,691	1,744	1,692	1,602	1,490	1,542	1,486	1,538	1,637	1,712	1,769	1,803	1,934	2,049	2,068	2,091	2,080	2,281	2,373
営業利益	173	217	208	248	174	192	198	155	195	222	253	286	314	350	371	386	425	510	523	547
経常利益	174	213	212	244	169	192	194	159	205	237	264	295	317	362	391	400	439	537	558	555
純利益	113	137	140	155	101	128	130	110	139	167	182	224	240	271	294	308	335	388	411	415
EBITDA	269	316	305	345	276	301	303	259	291	308	338	383	403	455	480	492	530	612	633	676
売上高営業利益率	10.7%	12.8%	12.0%	14.6%	10.9%	12.8%	12.9%	10.4%	12.7%	13.6%	14.8%	16.2%	17.4%	18.1%	18.1%	18.7%	20.3%	24.5%	22.9%	23.1%
ROE	15.2%	16.1%	14.7%	15.6%	10.3%	12.6%	11.9%	9.5%	11.4%	12.7%	12.7%	14.6%	15.1%	16.1%	16.6%	16.9%	17.5%	19.2%	19.4%	18.6%
EPS(円/株)	59.77	72.73	75.43	85.15	57.26	74.00	75.94	64.52	83.74	102.11	113.99	143.37	156.97	180.30	197.67	210.09	231.73	271.88	291.36	297.61
配当(円/株)	11	15	20	20	22	24	24	24	26	30	36	44	52	68	82	90	104	122	164	164
配当性向	18.4%	20.6%	26.5%	23.5%	38.4%	32.4%	31.6%	37.2%	31.0%	29.4%	31.6%	30.7%	33.1%	37.7%	41.5%	42.8%	44.9%	44.9%	56.3%	55.1%
自己株式取得	-	-	47	50	80	-	28	-	50	50	60	90	90	90	90	100	100	120	90	-
総資産	1,694	1,832	1,773	1,727	1,723	1,814	1,834	1,901	1,992	2,080	2,239	2,282	2,317	2,460	2,470	2,495	2,655	2,797	2,987	-
純資産	800	936	993	1,012	968	1,077	1,124	1,196	1,267	1,378	1,513	1,569	1,637	1,764	1,821	1,855	2,006	2,080	2,215	-
現預金	43	85	110	76	97	148	211	279	319	308	313	353	357	377	362	306	324	347	296	-
有利子負債	446	415	324	344	455	421	399	389	381	361	351	331	308	286	266	246	227	227	273	-
自己資本比率	46.4%	50.2%	55.3%	58.0%	55.5%	58.7%	60.7%	62.4%	63.0%	65.7%	66.9%	68.1%	69.9%	71.0%	73.0%	73.7%	74.9%	73.6%	73.1%	-
設備投資	66	92	121	109	139	101	96	83	79	88	98	102	143	137	99	157	158	110	203	217
減価償却費	96	99	97	97	102	110	104	105	95	85	85	97	89	105	109	105	104	102	110	129
R&D	86	92	99	125	137	131	126	136	137	142	150	158	161	172	178	172	165	160	168	174
同 売上高比率	5.3%	5.4%	5.7%	7.4%	8.6%	8.8%	8.2%	9.2%	8.9%	8.7%	8.7%	8.9%	8.9%	8.9%	8.7%	8.3%	7.9%	7.7%	7.4%	7.3%

※ 2021- :会計方針の変更影響を含む(p74参照)

セグメント別売上高・営業利益推移

売上高(A)

(億円)

	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023 (予想)
化学品	369	345	355	343	343	348	349	357	343	319	376	390	413
機能性材料	340	374	428	494	518	528	588	630	655	716	817	826	875
農業化学品	338	354	391	457	475	520	581	627	640	638	658	816	842
ヘルスケア	100	127	116	88	87	80	75	70	70	67	66	67	60
卸売	448	466	507	544	556	552	595	679	679	698	804	991	1,053
その他	200	212	214	209	209	240	215	246	224	238	236	264	307
調整額	-309	-340	-374	-423	-419	-465	-469	-560	-543	-585	-877	-1,073	-1,177
合計	1,486	1,538	1,637	1,712	1,769	1,803	1,934	2,049	2,068	2,091	2,080	2,281	2,373

営業利益(B)

化学品	16	19	19	19	39	38	34	30	13	15	38	14	32
機能性材料	48	72	88	120	120	125	142	150	170	224	276	254	265
農業化学品	44	50	62	92	108	132	164	184	193	182	181	231	236
ヘルスケア	46	52	49	23	20	17	12	10	9	4	28	30	23
卸売	13	14	15	17	18	17	18	20	21	25	29	37	35
その他	3	7	8	6	5	10	6	9	7	8	7	9	9
調整額	-15	-19	-19	-24	-24	-25	-26	-32	-27	-33	-49	-52	-53
合計	155	195	222	253	286	314	350	371	386	425	510	523	547

営業利益率(B)/(A)

化学品	4.3%	5.5%	5.4%	5.5%	11.4%	10.9%	9.7%	8.4%	3.8%	4.7%	10.1%	3.6%	7.7%
機能性材料	14.1%	19.3%	20.6%	24.3%	23.2%	23.7%	24.1%	23.8%	26.0%	31.3%	33.8%	30.8%	30.3%
農業化学品	13.0%	14.1%	15.9%	20.1%	22.7%	25.4%	28.2%	29.3%	30.2%	28.5%	27.5%	28.3%	28.0%
ヘルスケア	46.0%	40.9%	42.2%	26.1%	23.0%	21.3%	16.0%	14.3%	12.9%	6.0%	42.4%	44.8%	38.3%
卸売	2.9%	3.0%	3.0%	3.1%	3.2%	3.1%	3.0%	2.9%	3.1%	3.6%	3.6%	3.7%	3.3%
その他	1.5%	3.3%	3.7%	2.9%	2.4%	4.2%	2.8%	3.7%	3.1%	3.4%	3.0%	3.4%	2.9%
合計	10.4%	12.7%	13.6%	14.8%	16.2%	17.4%	18.1%	18.1%	18.7%	20.3%	24.5%	22.9%	23.1%

セグメント資産 (2022年度)(D)

化学品	343
機能性材料	613
農業化学品	1,038
ヘルスケア	77
卸売	368
その他	136
調整額	412
合計	2,987

ROA(2022年度) (B)/(D)

化学品	4.1%
機能性材料	41.4%
農業化学品	22.3%
ヘルスケア	39.0%
卸売	10.1%
その他	6.6%
合計	17.5%

- ※ 2011：旧セグメント(2011年6月組織変更前), 2012-：新セグメント(2011年6月組織変更後)
- ※ 売上高はセグメント間の内部売上高又は振替高を含む
- ※ 2021-：会計方針の変更による売上高減少を含む(p74参照)
- ※ 卸売：日星産業、その他：日産物流・日産緑化・日産エンジニアリング・日本肥糧ほか、調整額：企画本部ほか
- ※ 企画本部の2021年度実績、2022年度実績の売上高・営業利益はp62に記載
- ※ 2022年4月に組織改定を実施。2020年度実績までは旧セグメント区分、2021年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p75,p76参照)

- ※ 2019-：新方式セグメント別営業利益
 1. 2020年度より変更(売上高は変更なし)
 2. 2019年度は遡及して再計算
 3. 連結調整(固定資産未実現利益、棚卸資産未実現利益など)は、旧方式では各セグメントに配賦していたが、新方式では各セグメントに配賦せず調整額で一括処理

セグメント別売上高 四半期推移(2020年度～2023年度業績予想)

(億円)

	2020年度 実績					2021年度 実績					2022年度 実績					2023年度 業績予想				2022年度 予想 (2023年2月発表)
	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	下期	年間	4Q
化学品	74	73	83	89	319	88	83	105	100	376	104	94	101	91	390	94	98	221	413	98
ファインケミカル	27	27	28	32	114	32	30	37	32	131	42	35	33	28	138	31	34	82	147	32
基礎化学品	47	46	55	57	205	56	53	68	68	245	62	59	68	63	252	63	64	139	266	66
機能性材料	171	175	192	178	716	200	196	209	212	817	218	202	206	200	826	205	212	458	875	209
農業化学品	146	111	63	318	638	134	116	119	289	658	197	160	131	328	816	192	176	474	842	326
ヘルスケア	15	15	14	23	67	11	22	20	13	66	17	15	16	19	67	19	13	28	60	18
ヘルスケア	7	8	6	8	29	6	8	5	6	25	8	6	4	6	24	6	6	11	22	6
ファインテック	8	7	8	15	38	4	15	14	8	41	8	10	12	13	43	13	8	17	38	12
卸売	182	155	178	183	698	178	186	222	218	804	237	240	270	244	991	237	250	566	1,053	243
その他	48	46	68	76	238	49	55	61	71	236	65	59	67	73	264	68	60	179	307	89
調整額	-143	-123	-161	-158	-585	-195	-205	-241	-236	-877	-255	-258	-294	-266	-1,073	-267	-271	-639	-1,177	-280
合計	493	452	437	709	2,091	465	453	495	667	2,080	583	512	497	689	2,281	548	538	1,287	2,373	703

- ※ セグメント間の内部売上高又は振替高を含む
- ※ ヘルスケアセグメントでは、億円未満を四捨五入して表示しており、これにより合計値が合わない場合がある
- ※ 2020年度より、ファインオキソコールを基礎化学品からファインケミカルへ移管している
- ※ 卸売：日星産業、その他：日産物流・日産緑化・日産エンジニアリング・日本肥糧ほか、調整額：企画本部ほか
- ※ 企画本部の2021年度・2022年度の実績値はp62に記載
- 2022年度予想値(2023年2月発表)は2022年度3Q決算説明資料p55を参照
- ※ 2022年4月に組織改定を実施。2020年度実績は旧セグメント区分(p75,p76参照)

セグメント別営業利益 四半期推移(2020年度～2023年度業績予想)

(億円)

	2020年度 実績					2021年度 実績					2022年度 実績					2023年度 業績予想				2022年度 予想 (2023年2月発表)
	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	下期	年間	4Q
化学品	7	-8	7	9	15	13	-1	13	13	38	17	-6	4	-1	14	9	3	20	32	2
機能性材料	53	54	63	54	224	69	62	76	69	276	79	60	69	46	254	66	61	138	265	54
農業化学品	40	38	-13	117	182	40	29	30	82	181	68	53	31	79	231	66	54	116	236	83
ヘルスケア	-1	1	0	4	4	3	11	9	5	28	8	7	6	9	30	10	5	8	23	8
ヘルスケア	-2	-1	-4	-2	-9	2	3	2	2	8	4	2	1	2	9	3	2	3	7	1
ファインテック	2	2	3	6	13	1	8	8	3	20	4	5	6	7	21	7	3	5	16	6
卸売	7	5	7	6	25	7	6	9	7	29	10	9	10	8	37	7	8	20	35	4
その他	0	0	4	4	8	1	-1	2	5	7	1	0	2	6	9	2	-1	8	9	6
調整額	-8	-8	-12	-5	-33	-14	-12	-13	-10	-49	-10	-14	-16	-12	-52	-15	-14	-24	-53	-11
合計	98	82	56	189	425	119	94	126	171	510	173	109	106	135	523	145	116	286	547	146

※ ヘルスケアセグメントでは、億円未満を四捨五入して表示しており、これにより合計値が合わない場合がある

※ 卸売：日星産業、その他：日産物流・日産緑化・日産エンジニアリング・日本肥糧ほか、調整額：企画本部ほか

※ 企画本部の2021年度・2022年度実績値はp62に記載

2022年度予想値(2023年2月発表)は2022年度3Q決算説明資料p55を参照

※ 2022年4月に組織改定を実施。2020年度実績は旧セグメント区分、2021年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p75,p76参照)

会計方針の変更(2021年度～)

2021年度より会計方針を変更。本ページは2022年5月発表 2021年度決算説明資料から変更なし

1. 方針の変更

「収益認識に関する会計基準(企業会計基準29号)」を適用

2. 適用時期 2021年4月1日より

3. 方針変更に伴うPL、BSへの主な影響

2021年度のPLへの影響額(前年同期比)

(億円)

	2021実績						
	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	年間
売上高の増減※1	-35	-74	-109	-17	-103	-120	-229
営業利益の増減※2	+12	-21	-9	+40	-32	+8	-1

※1 (1)代理人取引、(2)売上高を基礎としたロイヤリティ収入、(3)変動対価、の影響合計

※2 (2)売上高を基礎としたロイヤリティ収入、(3)変動対価、の影響合計

(1) 代理人取引

主たる適用セグメント	化学品、農業化学品、卸売
適用後	売上総利益額見合の売上高のみ表示(適用前は売上高、売上原価を総額で表示)
2021年度PLへの影響額	<ul style="list-style-type: none"> 売上高、売上原価がそれぞれ228億円減少、営業利益には影響せず 各セグメントの売上高には影響させず、「調整額」で控除

(2) 売上高を基礎としたロイヤリティ収入

主たる適用セグメント	農業化学品(動物薬ロイヤリティ収入)
適用前(2020年度まで)	MSD社※ 1-6月売上高見合を8月、7-12月売上高見合を翌年2月に計上
適用後(2021年度より)	MSD社※ 1-3月売上高見合を5月、4-6月売上高見合を8月、7-9月売上高見合を11月、10-12月売上高見合を翌年2月に計上

※ MSD社:米国メルク社のアニマルヘルス事業部門のMSD Animal Health 社の略称

(3) 変動対価(販売時点では変動する可能性のある売上値引など)

主たる適用セグメント	農業化学品
適用後	<ul style="list-style-type: none"> 売上期間に応じて見積もり計上(適用前は金額確定時に計上) 適用前に比べ、値引額は1Q増加(マイナス影響)、2Q減少、上期増加、下期減少、年間ほぼなし、の傾向
2021年度BSへの影響額	2021年度期首利益剰余金(BS項目)が2020年度の遡及修正で15億円減少(税効果反映後)
適用前(2020年度)	2020農年(2019年10月-2020年9月)の売上見合い値引きのみ計上
適用後(2020年度)	上記に加え、2020年10月-2021年3月の売上見合い値引き15億円追加計上

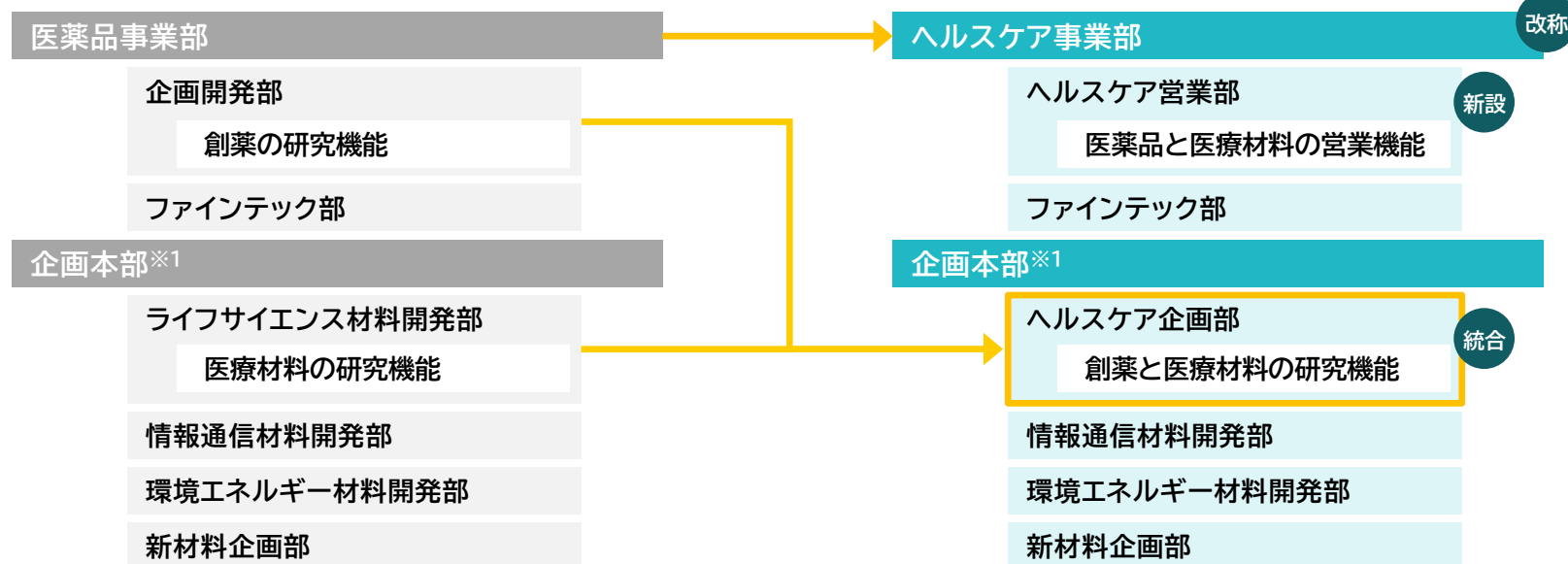
事業環境の変化を適切にとらえながら中長期的な成長を実現していくため、2022年4月1日付で以下の組織改定を実施(2022年8月発表 2022年度1Q決算説明資料から変更なし)

医薬品事業部および企画本部※1ライフサイエンス材料開発部の組織改定

目的 創薬・医療材料の機能統合(研究機能を企画本部※1。営業機能をヘルスケア事業部)

改定前

改定後



※1 企画本部は、セグメントでは「調整額」に含まれる。
 企画本部の2021年・2022年度実績および2024、2027年度予想の売上高・営業利益はp62に記載

本ページは2022年8月発表 2022年度1Q決算説明資料から変更なし

(億円)

	2021年度 実績 (組織改定前ベース)					2021年度 実績 (組織改定後ベース)					組織改定 前後差				
	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	3Q	4Q	年間
化学品	13	-1	13	13	38	13	-1	13	13	38	0	0	0	0	0
機能性材料	70	62	76	69	277	69	62	76	69	276	-1	0	0	0	-1
農業化学品	41	29	31	82	183	40	29	30	82	181	-1	0	-1	0	-2
ヘルスケア	-2	7	4	0	9	3	11	9	5	28	+5	+4	+5	+5	+19
ヘルスケア	-3	-2	-3	-3	-11	2	2	2	2	8	+5	+4	+5	+5	+19
ファインテック	1	8	8	3	20	1	8	8	3	20	0	0	0	0	0
卸売	7	6	8	8	29	7	6	8	8	29	0	0	0	0	0
その他	1	-1	2	5	7	1	-1	2	5	7	0	0	0	0	0
調整額	-11	-8	-8	-6	-33	-14	-12	-12	-11	-49	-3	-4	-4	-5	-16
合計	119	94	126	171	510	119	94	126	171	510	0	0	0	0	0

※1 2021年度実績(組織改定前)のヘルスケアの数字は、旧医薬品セグメント

※2 ヘルスケアセグメントでは、億円未満を四捨五入して表示しており、これにより合計値が合わない場合がある

※3 卸売：日星産業、その他：日産物流・日産緑化・日産エンジニアリング・日本肥糧ほか、調整額：企画本部ほか

※4 企画本部の2021年度・2022年度実績の売上高・営業利益はp62に記載

※5 売上高は、組織改定の影響なし

新中期経営計画の実現に向け、事業領域の選択と集中を加速
(2022年5月発表 2021年度決算説明資料から変更なし)

注力する事業領域	主な取り組み
ヘルスケア	核酸医薬 <ul style="list-style-type: none"> 当社独自の核酸創薬基盤技術を活用し、資源の8割を投入 製薬各社との共同創薬の着実な推進及びルクサナバイオテック株式会社との戦略的提携(核酸標的7テーマ確保)
	低分子医薬 <ul style="list-style-type: none"> 創薬ベンチャーとの協業(10から3テーマに)、AI活用(既存創薬からの転換)
	医療材料 <ul style="list-style-type: none"> 生体界面制御材料、化粧品材料等
ファインテック	既存ビジネスモデルの強化に加え、共同開発も指向(ペプチド等)

資源投入

(人、概数)

	2021実績	2022予想 (2022年5月発表)	2024中計	2027中計
研究者数	75	15	20	20
ヘルスケア	65	5	5	5
ファインテック	10	10	15	15
参考 企画本部ヘルスケア研究者数	35	90	85	90

(億円)

	2021実績	2022予想 (2022年5月発表)	2024中計	2027中計
研究開発費	21.3	7.4	10.3	11.2
ヘルスケア	18.0	3.1	5.2	5.3
ファインテック	3.3	4.3	5.1	5.9
参考 企画本部移管影響 (B)	-	14.5	12.6	12.7

計数計画

(億円)

	2021実績	2022予想 (2022年5月発表)	2024中計	2027中計
売上高	66.3	59.4	72.3	114.8
ヘルスケア				
既存製品	24.2	21.3	11.3	9.0
新製品	0.4	0.0	4.4	20.8
ファインテック				
既存製品	41.7	38.1	50.6	57.9
新製品	0.0	0.0	6.0	27.1
営業利益 (A)	9.5	20.9	21.5	42.9
ヘルスケア	-10.7	5.3	-7.0	-1.0
ファインテック	20.2	15.6	28.5	43.8
参考 企画本部移管前の実質営業利益 (A)-(B)	9.5	6.4	8.9	30.2

※ 2021年度実績のヘルスケアの数字は、旧医薬品セグメント(組織改定前)

セグメント		製品名	主用途
化学品	ファインケミカル	テビック	エポキシ樹脂： ソルダーレジストインク材料、LED封止材材料、粉体塗料硬化剤
		メラミンシアヌレート	難燃剤
		環境化学品	プール、浄化槽用殺菌消毒剤
		ファインオキシコール	化粧品原料、潤滑油原料、電子材料用接着剤原料
	基礎化学品	メラミン(22年6月生産停止)	接着剤
		アドブルー®	ディーゼル車排ガス浄化用高品位尿素水
		高純度硫酸	半導体用洗浄剤
		アンモニア、硫酸、硝酸、尿素	
機能性材料	ディスプレイ	サンエバー	液晶配向材用ポリイミド
	半導体	ARC®(KrF、ArF)	半導体用反射防止コーティング材
		OptiStack®(多層材料)	半導体用多層プロセス材料(Si-HM、SOC)
		EUV材料	EUVプロセス材料
	無機コロイド	スノーテックス	コロイダルシリカ： 研磨剤(シリコンウェハー、化合物半導体、半導体CMP等)、特殊鋼板
		オルガノゾル・モノマーゾル	有機溶媒・モノマー分散シリカゾル： フィルム表面処理、電子機器、樹脂添加剤
		オイル&ガス材料	シェールオイル・ガス採掘効率向上材
農業化学品	除草剤	タルガ	大豆、なたね、てんさい
		パーミット	とうもろこし、さとうきび、稲
		ラウンドアップ	非選択性茎葉処理除草剤： 非農耕地、果樹園
		アルテア	稲
	殺虫剤	グレーシア	野菜、茶
	殺菌剤	ライメイ	ばれいしょ、野菜、ブドウ
		クインテック(キノキシフェン)	果樹、野菜
		ダイセン(マンゼブ)	果樹、野菜
	動物医薬品	フルララネル	ペット用外部寄生虫薬BRAVECTO®、鶏用ワクモ駆除剤EXZOLT®原薬
	ヘルスケア		リバロ原薬
		ファインテック	課題解決型受託事業およびジェネリック製品開発

※ アドブルー®はドイツ自動車工業会(VDA)の登録商標 ※ ARC®およびOptiStack®はBrewer Science, Inc. の登録商標
 ※ BRAVECTO®およびEXZOLT®はMSD の登録商標

本資料に記載されている将来の当社事業に関する見通しは、資料作成時点で入手可能な情報に基づいて当社が判断したものであり、将来の当社業績を保証するものではありません。様々な不確実要素により、実際の業績は予測と大きく異なる結果になる可能性があります。

また、本資料は投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身のご判断で行われるようお願いいたします。

本決算説明資料に掲載されている全てのコンテンツは、日産化学株式会社が所有しています。
